

2009年度事業報告

2009年度は新たに改正された公益法人の設立趣旨及び基準に適合するように本会活動事業の基本項目組み換え、各事業を実施した。また、2009年度は本会創立30周年の節目の年にあたり、各地で各種記念行事を行い、活動30周年一応のけじめをつけることが出来た。

以下本会の2009年度の事業計画に従いその活動実施概況を報告する。

I. 国際協力支援事業

本会の国際協力支援事業は基本的に、貧困層の自立を目的に「水」、「子ども」、「貧困対策」、「環境」及び「関連事業」の各項目において実施している。本会が実施する事業は「飲料水供給」を主軸とした地域開発・生活向上支援事業であるため、単年度事業の形態をとりつつもその効果については一定期間（数年から数十年）の業務継続を行なっている。

A. 『水事業』 —井戸飲料水供給—

1. 井戸・飲料水供給

本年度はアジア9カ国（インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ミャンマー、ラオス）の貧農地域89ヶ所に安全な飲料水の供給のために井戸及びパイプライン89基を建設した。これによって、人々の生活水を確保することが出来た。井戸建設による効果の内、直近の効果は水汲みの労働が軽減されたこと、これまで水汲みの重労働から開放された多くの子どもが就学の機会を得ることが出来たことである。同様に、多くの女性たちにとって余裕が出来た時間や労働力を内職、その他の生活改善に用いることが出来た。また、調査事業として、バングラデシュにおける砒素対策の研究支援を行った。

今後の課題としては、世界の異常気象による降雨量の激変とそれに伴う洪水や極端な水不足が懸念される昨今、水の安定供給のために水源確保のための知恵（水源の森づくり、雨水の利用、地下水位の安定化等）が必要であることが分かった。同時に、砒素問題等水の安全性が云々されつつある今日、現地においても試掘時の水質調査の徹底されるようになってきた。住民の水質に関する関心と水場の環境衛生への意識化を計ることが重用との認識が芽生えつつあることは一つの成果である。

今後、井戸建設支援実施基準（例、新設井戸が必要とみなされる諸条件、建設後の管理体制等）の見直し、また、経費がかかるが現地の要請による井戸現場の実地調査を徹底するなどが必要となっている。

2. 調査研究

昨年に引き続き、バングラデシュ工科大学（BUET）の洪水、環境、水問題の研究に携わっている大学院学生に対して、奨学金の支援を行った。本会では、水の問題については砒素問題を発端として、大学研究室及び学生たちと表層水の活用の研究・実験（表層水の浄化及び塩素処理等）を農村部でおこなった。

洪水問題に関しては、本会バングラデシュの提携者の一人であるムンスールラーマン教授の開発した洪水防止柵（バンドル）がバングラデシュ政府に認められ、各地でその方法が採用されている。本会はこの開発のために研究資金を支援した。

彼の門下生たちは昨年度のサイクロン・シドルの本会支援の際に大きな役割を果たしてくれた。このような人的ネットワークは地道な支援の結果であるといえる。

B. 『子ども事業』 —貧困層の子どもたちへの初等教育普及および、いのちの質の向上支援事業—

アジア各地の貧困層の子どもたちへの救済支援事業として、「初等教育普及・向上事業」、「HIV／AIDS 感染症子ども支援事業」、及び、「栄養改善、ストリートチルドレン保護、教育環境整備等支援事業」等の事業を行った。

1. 初等教育普及・向上事業

貧農地帯ゆえに近くに学校がない、貧しさゆえに学校に通えない等の子供たちのために継続して教育支援を行っている。

本会は教育里親制度(教育資金の提供)を通じて2009年度はアジア5ヶ国(インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン)の貧しい子どもたち363名の教育支援を行った。

「貧困なきアジア社会」の建設を目指す本会にとって、教育は貧困からの脱却の優れて効果的な手段とみなしている。本年度もそれなりの支援が出来たことを喜ぶ。今後の課題は地域によっては現地の子どもや学校の状況をこまめにレポートしてくれるリポーター不足があり、それをどう改善するかの問題がある。現在は学校の教師がその役をしている。援助ビジネス団体ではプロのリポーターを配属させているが普通のボランティア団体ではそこまでの余裕がないのが実情である。

2. 教育設備・環境整備

小学校校舎建設(ベトナム)、教室増設(ネパール)を行った。地域の識字率が向上し、地域社会の発展に大きく貢献しつつあるといえる。識字率の高まりは社会発展をうながすことに役立つが、問題は、教育をうけた者を吸収する十分な職の開発(就職先の開拓)が課題となっている。

またネパール・ピトゥリ村の小学校において教室の増設を行った。近年、教育に対する意識の向上が進む一方、学校行政がいまだ整っていない農村部において村の自助努力だけでは不十分のため本会の協力支援が大きな役目を果たした。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

本会は2009年度より現地提携団体の要請により南インド・タミルナード州ディンディガル地区のHIV感染症の子ども及びその家族(一家族3~5人、平均収入50円以下の生活状態にある家族)7家族を対象とする生活支援活動を実施した。現地からは10家族以上の支援が要請されているが、十分に対応できなかったことが反省点となっている。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育環境整備

(1) 栄養改善(ネパール)

中南部チトワン地区ピトゥリ村で本年度も継続実施した。例年、実施している村の子どもたちへの給食支援は、学校の課程に組み込まれるようになり、子どもたちの栄養不足を補うばかりでなく、様々な教育的意味をふくめることが出来るようになっている。近年徐々に貧困地域において学校給食が広がる傾向にあるのが喜ばしい。

(2) ストリートチルドレンの保護(フィリピン)

元ストリートチルドレンの子どもたちが、路上での生活から開放され、様々な教育プログラムを受ける機会ができた。子どもたちの健全な成長につながっている。また、親を対象とした栄養改善プログラムにより、生活環境の改善が見られた。子どもたちの社会性が身につく、プログラムへの積極的参加をしたいという子どもたちが年々増えてきている。

C. 『貧困対策事業』 一絶対的貧困状況からの脱却及び自立を目指す諸事業の推進一

1. マイクロクレジット支援・能力開発

井戸を建設した村の女性自立のための方策として行われているもの。

本会の提携団体が井戸を建設した各村に生活普及員の制度を設け、生活普及員を通じてこのプロジェクトを実施している。融資返金利息は次なる資金へと引き継がれるばかりでなく、道路整備、井戸建設、灌漑用ため池づくり

になど、村の発展にも役立てられている。

本年度は、インドにおける女性の相互扶助グループのワークショップ開催支援と、カンボジアで新たに 69 世帯 14 グループ (1 グループ 5 人で構成) に少額の貸し付けを行った。

2. 職業訓練

2009 年度はインドカルナータカ州ビジャプール地区において、貧困層の収益向上、雇用強化のための地場産業育成、及び職業訓練専門学校の開設準備を進める年となった。ここでは学生が、電気技術や各種機械整備技術を身につけることができる。

認可基準を達成するために各種の設置準備と正式な職業訓練学校 (ITI) として内容 (カリキュラム) の整備を行った。結果、去る 12 月に中央政府 (デリー) の正式認可を受けることが出来た。2010 年 9 月より正式開校予定。定員 60 名。2 年間コース。現在、日本外務省の無償資金援助により新校舎 (作業場) を建設中。

技術専門学校が開設されることにより、貧農の子どもも基礎教育を受ければ職を得るための技術が手につけられる可能性を示すことになり勉学への大いなる励みとなることが期待される。問題は技術水準の維持と良い教員の安定確保である。

3. 保健衛生指導・医療

(1) 簡易トイレ建設

ネパールの小学校にトイレの建設を行い、衛生教育及び環境整備 (蝇などの発生源の除去等) に役立つとして歓迎された。

(2) 医療支援

ネパールのスクテ診療所の運営支援、母子保健向上支援事業として、TBA (伝統的お産介助者) 支援をおこなった。また、チョータラ村では引き続き母子保健の向上を図った。

D. 『環境事業』 一自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援一

1. 植林・水源涵養林養育支援

緑化支援事業として毎年継続して実施している。2009 年度はアジア 4 カ国、(中国 142,500 本、ネパール 3,484 本、フィリピン 1,505 本) において実施した。この事業の特色は住民参加が基本であることである。地域住民の正しい認識なしに環境問題や地域緑化事業は成り立たない。同時に、現地のリーダーの育成が不可欠である。

2. 環境改善・市民による環境保全活動 (国際グリーンスカウト運動)

地球環境保全戦略の一環として 1986 年に本会提唱の環境保全市民運動 (通称、グリーンスカウト運動) は現在アジアの各地で徐々にではあるが広がりつつある。

2009 年度は、インド、タイ、ネパール及びフィリピンにおいて特筆すべき活動が行われた。

インドでは、インドグリーンスカウトが正式に政府登録をすることを決めた。ネパールでは、ローカルグリーンスカウトの組織作りを行った。タイでは、指導者養成研修としてタイ各地から 22 名のリーダーが参加した。フィリピンでは、現地スタッフ 1 名を招聘し、有機農業・環境保全研修を行い、その研修を活かした環境保全プログラムが各種現地で行われた。

この運動は地域住民の環境保全意識を喚起するねらいがある。アジア各地においても、“クリーン (clean) & グリーン (green)” キャンペーン運動が行われている。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

インド・ビジャプール市ブルナプール村の日印友好学園コスモニケタンでは、生活環境の良くない子どもたちのた

めに勉強に集中できるように設けられた学生寮に64人の子どもたちが毎夜停電と戦いながら勉強に励んでいる。風力発電とソーラーパネルを設置し、夜間でも学習用の電気が使えるようになり、学生寮に宿泊している子どもたちの夜間の学習に大いに貢献している。

また、ネパールにおいてバイオガス・プラント事業の名の下に、年々増加する燃料としての木材資源の消費を抑えるため、及び健康上の理由（煙による諸種の弊害、例、眼病の防止等）からバイオガス利用を各家庭に奨励している。薪以外に生活燃料を持たない貧農家族への共同利用奨励事業としている。2009年度郵便貯金の国際ボランティアの配分金事業として支援をうけた。

E. 『関連事業』 本会上記基本事業以外の支援事業

1. サイクル・エイド

社会問題化している放置自転車の有効利用の一環として、開発途上国の社会活動に役立ててもらうために、中古自転車を必要として要請される地域に寄贈する事業。本会では2005年より大阪府の事業を受け継いで実施している。2009年度はタイ国の2地域（ランパーン県及び、ナン県）に1,380台寄贈した。

アジア各地からの要請が多いのに驚く。残念ながら最近は放置自転車の各自治体からの提供が減少しつつある。理由の一つに、放置自転車の換金性が高まり各自治体の収入源とみなされるようになってきている。今後、各自治体の継続調達の可否が本事業の継続の鍵となる。

2. 災害復興

2009年9月と10月にフィリピンを襲った巨大台風及びインドネシア、スマトラ沖に発生した地震への災害復興支援を行った。フィリピン災害支援に対しては初期支援活動として、食料の配布を実施、当初予定していたよりも多くの1500世帯に被災家族に配布でき、現地から好評を得た。復興支援としては、被害家屋の修復のための資材379世帯分の配布と、生活改善のための魚網、ボートの配布が行われた。

スマトラ沖地震に関する初期支援としては食料及び必要生活物資の配布を行った。特に、飲料水の入手が困難な村や学校への井戸及びパイプラインの設置を住民参加を促しつつ行った。その結果、住民たちの支援事業への達成感が高まり、地元の話題となり、マスコミにも本会の支援が取り上げられた。現在他地域からも支援の要請が絶えないほどになっている。

加えて、2010年1月にバングラデシュを襲った寒波により、寒さの被害を受けた農村の子どもたちからの要請を受け、暖かい衣服の支援を行った。

3. AFS 部会運営助成

インド(RUDYA、BSVIA、HDSI)、カンボジア(KAFS)、スリランカ(SARVODAYA)、タイ(TAFS)の運営費を支援した。

各事業に関連して、ワークキャンプ、海外プロジェクト視察（インド、インドネシア、中国、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、フィリピンにて7カ国20回）を実施。

II. 国際交流事業

A. ネットワーク推進事業

「貧困無きアジア社会」の実現を目指して、アジアの人々と連帯していくための本会が誇る活動事業の一つである。アジアに「理解と協力と連帯」の輪を広げることが本会の各種支援事業の目的である。アジアのネットワークは単にアジア人のためだけを目的とするものではない。世界に対するアジア的貢献を目指し、アジアのネットワークを通じて世界に貢献できるアジア人（若者）の育成を図ることにある。

現在本会ネットワークには18ヶ国50ヶ所に及ぶ提携団体が存在する。

1. アジア国際ネットワークセミナー

第20回アジア国際ネットワークセミナーは、流行性インフルエンザの危険性を残念ながら考慮して中止となった。

2. 国際体験交流（スタディーツアー等）

アジア5カ国（インド、ネパール、ベトナム、ミャンマー、ラオス）において、交流ツアー5回を実施した。

3. アジア青少年指導者育成（交流）プログラム

アジア青少年指導者育成プログラム、「アジアユースサミット」を日本（大阪、奈良）にて開催した。アジア6ヶ国、参加者、高校生50名、支援参加者250名。

人材育成にはそれなりの人的ネットワークと資金が必要である。この事業は現在のところ、かなりの資金不足に陥っている。井戸建設とか学校建設といった開発支援事業に比べて協力者が得にくい実情がある。教育が個人的投資の対象とみなされ、その公共的側面が見過ごされている状況においてはなかなか困難であるが、必ずそれなりの資金調達方法はあると確信している。

4. その他

(1) AFS 国際会議

本会が国際協力、海外支援事業を有効に実施・推進していくために、各提携団体相互の理解と協力と連帯が必要且つ有効であるとの認識から必要に応じて実施している。特に、環境問題や貧困問題等に共通する基本的ないしは根源的問題について、相互の研究会や技術的レベルの情報交換やスタッフの交流、活動や交流のための共通基金の創設等、各種連携は不可欠である。

今年度は、国際グリーンスカウト指導者養成会議（タイ、ランパーン市）の開催、AFS（アジア友の会）インド地区協議会（ガッチロリ市）、カンボジア部会との交流・協議会（プノンペン市）、アジアフレンドシップ基金第一回協議会（バンコク、ノンタブリ市）の計4回開催した。

B. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

昨年度に引き続き、将来のアジア共同体の建設に向けて、各国の高級専門職員の研修、養成のために、本会奨学金制度により、カンボジアの大学教員1名をフィリピン大学（UP）の博士課程に在籍させた。

また、国内では、中国人（ウイグル自治区出身）留学生に博士課程の奨学金を支給、フィリピンの現地スタッフの有機農法研修を支援した。

フィリピンのアジア社会科学院の開発コースには、2002年より毎年AFSのメンバーから留学生を派遣している。2009年度はバングラデシュ人1名を研修留学させ、地域開発について学んだ。

III. 普及啓発事業

本会の活動・事業に対する日本市民の関心と支援を得るためには普及啓発活動は欠かすことのできない重要な業務である。同時に、本会の活動・事業への関心を喚起することはアジア社会のみならず、国際協力やボランティアへの関心や認識を深めることに繋がり、ひいては国際理解や地球社会への関心を高め、日本市民の地球社会への市民的貢献を果たすことになる。かかる意味において、本会の広報活動は活動報告をはじめ、各種の学習会、勉強会や講演会、更には、開発教育や環境教育等多岐にわたる諸活動を行ってきた。

A. 啓発教育

1. 本部活動

(1) チャリティープログラム

会員が中心になって企画運営する事業(チャリティーバザーや JAFS the Party)は、親睦交流や会員活動の活発化につながっている。

(2) 国際理解教育授業

教育事業としては国際理解教育講座として、学校出前事業(講師派遣 23 校、参加生徒数 1,174 名)、本会での校外授業(6 校、114 名)及び、国際理解教育セミナー(1 回、30 名参加)を実施した。

(3) インド文化センター講座

文化理解事業として「インドの地方文化と出会う!!」と題して、6 回連続講座を開催した。のべ 81 名が参加した。

(4) アジア文化理解講座

アジア家庭料理教室では、アジア 12 地域、23 回の料理教室を開催した。のべ 433 名の参加を得た。

(5) 会員大会

第 2 回 JAFS 会員大会として、81 名の参加のもと、様々な分野で 1 年間顕著な活動をした個人・グループへの表彰を行った。参加者同士が交流し、JAFS の活動を知ることが出来る機会となった。

(6) 国際協力ボランティア講座

JAFS 例会として、2008 年度より海外プロジェクトを中心とした最新の JAFS 活動を会員及び市民に紹介する機会を設けた。5 回開催し、のべ 50 名の参加を得た。

(7) 関連プログラム

2009 年度は、ワン・ワールド・フェスティバル(国際交流センター)に運営委員として参加。多くの団体との連携の中、理事や運営委員として協力した。

2. 地区活動

国際協力を支援するためには市民の協力が不可欠である。そのためには地道な地域広報活動が必要となる。このためにはこの事業を支えていく会員(継続的支援者)の働きが不可欠である。本会活動の基本の一つである地域活動は地区世話人によって担われている。本会の事業・活動支援の推進役としての自覚とその働きは大きい。まさに市民型 NGO の華であるといえる。

京阪神 9 地区および関東地区を中心に、エリア世話人が地区活動のコーディネーター(調整・連絡役)となり、地区会員活動や広報活動をおこなっている。地域毎に様々な創意工夫を凝らし、人の輪づくりが進められて来ている。

B. 環境保全・教育

市民活動は一過性のものになりやすい面がある。国際社会への地道な貢献は永続するような工夫が必要である。次世代への継続性のある活動をなすためには、定期的な教育プログラムが効果を発揮する。

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は 2009 年に 26 年目を迎えた。参加者 77 名、リーダー、各種ボランティア等を含め総勢 158 名が参加し、自然環境へ親しむ心を育て、青少年のリーダーシップ育成につながった。

(2) 各部会活動

本会が提唱した国際グリーン・スカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーン・スカウトメンバーが活動を行っている。現在、国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方が部会を持つ。GS 大阪は毎週水曜日に例会を開催、年 6 回のエコキャンプや環境

プログラムの開催、リーダー研修を行った。GS吹田毎月1回の例会を開催。川の清掃活動を12回開催。それぞれがグループの特色を活かして活動した。

(3) ウォーカソン

“地球の水と緑を守る”ためのウォーカソン(基本的には地区活動の一環として実施)を24ヶ所で開催し、のべ472名が参加した。

(4) クリーンUP

2007年度より始まった土佐堀クリーンUP運動。5回開催し、のべ36名の参加を得た。地域の住民や企業の参加が見られた。

C. 広報

本会の活動・事業はその機関紙である、「アジアネット」及び会員活動情報誌である、「会員プラザ」をはじめ、ホームページ、インターネット広報など多種にわたり広報活動を行ってきた。

「アジアネット」や「会員プラザ」などがかなり充実してきた事は喜ばしい。反面、ボランティア各位の熱心な尽力にもかかわらずITにおける広報活動が今一步との指摘があり、事務局のITに対する姿勢の問題として深く反省するところである。

1. 機関誌

アジアネットを3回発行、会員プラザ3回4誌発行し、会員を含め広く活動を広報した。

2. インターネット

メールマガジン 回発行、JAFSホームページ随時更新した。また、活動の活発化に伴い、活動グループが独自でブログ・ホームページ(松原地区、東大阪地区、GS大阪、GS吹田)を立ち上げ、JAFS活動と連動しPRを行った。

D. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

E. 関連市民活動

1. 関西ナショナルトラスト協会

2. 日本を良くする会(Make Japan)

3. グリーンベイ OSAKA

4. その他協力機関

国内各地のNGOとの連携を深めるために、相互に交流協力及び、啓発プログラムを実施した。

IV. 特別事業

本会は「市民型NGO」として発足当初より、市民による国際協力への地町村単位のきめ細かい啓発・広報活動を重視しており、地域の人々の関心を呼び起こすために定期活動を実践している。

本会活動30周年を機に、再び市民型NGOとして再認識すると共に、国内での活動をより充実したものにしようと本会会員からの声を受け、“ぞうすいの会”“ウォーカソン”“植林”の活動が展開された。

この活動の実施において示された本会会員の熱意と努力に経緯を表するとともに深く感謝したい。かかる会員をはじめ多くの人々の参加なしにこうした活動は続けられないものである。会員自身の自主活動であることが大きな意義を持っている。

A. 30 周年記念パーティー

設立 30 周年記念パーティーを開催、海外ゲストを含む 132 名の参加となった。

B. 30 周年記念事業

1. ぞうすいの会

“雑炊 (簡素な食事) 食べて贈水 (安全な水を贈る) しょう～食卓からの国際協力～”運動。30 周年記念事業として 2008 年 10 月～2009 年度にかけて、全国各地で 58 回 (1437 名参加) 実施することが出来た。

2. ウォーカソン

“地球の水と緑を守る”キャンペーン活動の一環として「ウォーカソン (チャリティーウォーク)」活動。2008 年 10 月～2009 年度にかけて、全国 30 回 (569 名参加) 実施することができた。

3. 植林

グリーンスカウトの国内活動を植林に特化し、“We Green The Earth (地球を緑にしよう！)”として、計 4126 本の植林を達成することができた。

4. 関連プログラム

30 周年記念の関連プログラムとして、落語会や展示会、アジアユースサミットを開催することができた。

C. 30 周年記念誌発行

1978 年～2009 年の JAFS の国内外の活動をまとめた「30 年のあゆみ」を 1000 部発行した。

D. 30 周年記念募金

活動 30 周年の活動に特別募金として募り、396 件のご協力を得ることができた。

V. 運営管理

本会の運営の責任母体は理事会である。理事会が決議し事務局が実施する。

本会理事会は会長、理事長の下に 11 の常置委員会があり、本会活動を管理運営している。また、評議員会も本会の政策諮問の役割を担う、シンク・タンクとして世話人を中心に活発な活動がなされた。

以上、ここに報告された諸活動は、ひとえに、理事、評議員、社員 (正会員)、及び会員、協力者、一般の方々のご支援の賜物であることを確認し、感謝を持って、2009 年度活動概況をご報告申し上げる次第である。

Ⅰ．国際協力支援事業

Ⅰ－A．水事業

1．井戸・飲料水供給

(2010年3月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2009年度完成	累積
インド	4	434
インドネシア	10	44
カンボジア	24	242
スリランカ	6	73
タイ	—	88
中国	—	1
ネパール	16	100
バングラデシュ	6	125
パキスタン	—	8
フィリピン	20	313
ブルキナファソ	—	1
ミャンマー	2	11
ラオス	1	12
合計	89	1,452

インド

◆RUDYA マハラシュトラ州ガッチオリ地区 1基
露天式井戸 1基

アディバシーと呼ばれる少数民族が多数を占める地域。これらの住民たちは森林地帯に居住している。本年度は4基の寄贈を受け、その内1基が以下の地域にて完成し、225名(35世帯)が受益者となった。残りは現在建設を行っており、住民の健康と衛生改善、水くみの重労働からの解放が期待される。

マハラシュトラ州ガッチオリ地区バンタールゴータ村

◆HDSI マハラシュトラ州アムラワティ地区 1基
露天式井戸 1基

上記同様に少数民族が多数を占める地域。森林地帯に住む人々の健康と衛生改善と水くみの重労働の解放が期待される。本年度は2基井戸建設を行い、以下1基は完成し、400人(60世帯)が受益者となった。現在残りの1基の建設を実施している。

マハラシュトラ州アムラワティ地区ジャルプール村

◆SSH タミルナドゥ州ナマカル地区 2基
ポンプ式井戸 2基

タミルナドゥ州ナマカル地区シリヤカッティ村
タミルナドゥ州ナマカル地区ラマヤナプール村

インドネシア

◆パダンバリアマン県 10基
給水タンク式井戸・パイプライン 10基

2009年9月に発生したインドネシア、スマトラ沖西部地震の緊急・復興支援事業の一環として実施。

(詳細はA-V-2 災害復興支援事業を参照)

※(特活) ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施

カンボジア

◆KAFS 全域 24基
露天式/ポンプ式井戸 24基

不衛生なため池や雨期の雨水を利用し生活を行っている地域。ため池の水が原因の下痢などの疾患に悩まされている。乾期にはため池や雨水も枯れるために水不足に陥る。健康と衛生の改善と水不足の解消のために、本年度は井戸を26基の建設を行い、内24基が完成した。1203名(283世帯)が受益者となった。現在、懸念されていた地下水のヒ素含有や水質の問題はないが、今後、水質に問題が出てきた際の代替の水源地が開拓されておらず、2010年度、水源開拓のための調査・試験などを実施する予定。

タケオ州キリボン郡カウブリック地区バーム村

タケオ州トレアン郡アンケオ地区トラバンスナウ村(2基)

タケオ州トレアン郡ロネアム地区タマダ村

タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区ダンカウ村

タケオ州トレアン郡サンロン地区アンタポウク村(2基)

タケオ州トレアン郡ロネアム地区トラペアンチュレイ村

タケオ州トレアン郡ロネアム地区サンハ村

タケオ州トレアン郡アンケオ地区オウタセック村

タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区ロベアーン村(3基)

タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区クライン・カンドール村

タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区トラパングベン村(2基)

タケオ州トレアン郡プレイスルック地区サンハ村

タケオ州トレアン郡プレイスルック地区ネアル村

タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区トラペアンアン村

タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区ソーチャン村

コンボントム州スタウン郡ブラライ地区タトレアル村(4基)

第12回イオン労連カンボジアワーキングキャンプにて建設実施

スリランカ

◆SARVODAYA スリランカ全域 6基
露天式井戸 6基

バドゥーラ県カラダガハマダ村

パダビヤ県バンダーラ・ウルポタ村

I. 国際協力支援事業

バダビヤ県ドゥツウェワ村
バダビヤ県コビルベンダウエワ村
バダビヤ県ハンダガマ村
ガンパハ県エラックカーラ村

ネパール

◆GS ネパール 全域

16 基

露天井戸 6 基

ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村 (4 基)
バグマティ県カトマンズ地区ネイカプ村
バグマティ県バクタプル郡スダール村

簡易水道付給水タンク式井戸 4 基

バグマティ県シンドゥパルチョーク郡ボセバ村
バグマティ県カブレ郡トックチャ村
バグマティ県バクタプル郡スダール村 (2 基)

ポンプ式井戸 6 基

ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村 (6 基)

バングラデシュ

◆RWF バングラデシュ全域

2 基

ポンプ式井戸 2 基

両村ともガンジス川の河川沿いに位置する場所であり雨期の慢性的な洪水により生活が困難な地域である。不衛生な環境により下痢などの疾患が多い。本年度は 2 基を以下の地域に建設を行い 640 名 (1129 世帯) が受益者となった。健康と衛生の改善と安全な水の確保、水くみの重労働の問題の解消が期待されている。

懸念されていると素の含有の問題に関しては、浅井戸は洪水による堆積層により出来た村はと素の含有が少ないという試験結果に基づき、浅井戸 (約 20m) を掘削している。内陸部に関しては深井戸 (200m~300m) を建設し、試掘時の水質テストを行い、万全を期している。しかし、深井戸はコストが高く広く普及するには時間がかかるのが現在の課題である。

ラジシャヒ県ダルガ村 (深井戸)
チャパйнаワブガンジス県ミルキー村 (浅井戸)

◆BDP ボリシャル県

4 基

ポンプ式井戸 4 基

安全な水へのアクセスが悪く、ため池や川の水を生活用水として使用している地域。また、地下のと素の含有率が高い地域。本年度はこの地域に深井戸を 6 基建設し、内 4 基が完成した。2,168 名 (377 世帯) が受益者となった。BDP は教育支援を中心とした支援を行っているため、井戸建設地は BDP が運営する学校となっており、村の人たちも利用出来る様に開放しているため、受益者数が広がった。と素の含有の問題に関しても、学校の先生たちが研修を受け、維持管理を行っているために現時点では特に問題はない。村の住民や学校に通う子どもたちの健康と衛生の改善と水くみの重労働からの解消が期待されている。

ボリシャル県ジャラ地区バウドハール村 (深井戸)

ボリシャル県バグダ地区アンボイラ村 (深井戸)
ボリシャル県ジャラ地区バロイバリ村 (深井戸)
ボリシャル県バグダ地区ダスパラ村 (深井戸)

フィリピン

◆KALAPI ヌエバエシハ州

19 基

ポンプ式井戸 19 基

稲作地帯が広がるヌエバエシハ州では、農薬・化学肥料が使われるため、深度の浅い井戸からは化学物質や生活污水が混入している。国連でも認定された 25m 以上の深さの井戸を掘削した。これにより、各地に安全な飲料水を提供できた。

カビアオ町サン・フランシスコ村ブロック・カバンディン
カビアオ町サン・フランシスコ村ブロック・ガルシア
カビアオ町サン・フランシスコ村ブロック・デラクルズ
カビアオ町サン・フランシスコ村ブロック・サンフランシスコ
カビアオ町サン・フランシスコ村ブロック・ルエダ
カビアオ町サン・パブロ・ノルテ村シティオ・ウノ
カビアオ町サン・パブロ・ノルテ村シティオ・ドス
カビアオ町サンフェルナンド・ノルテ村サンフェルナンド・ノルテ小学校
カビアオ町サンフェルナンド・ノルテ村ブロック 4
カビアオ町サンフェルナンド・ノルテ村ブロック 4 アルファ
カビアオ町サンフェルナンド・ノルテ村シティオ・カボット
カビアオ町サンフェルナンド・ノルテ村ブロック 1
サンアントニオ町サンタ・バーバラ村サンタバーバラ小学校
サンアントニオ町ラワン・クパン村ラワン・クパン小学校
サンアントニオ町パバヤ村パバヤ小学校
サンアントニオ町サン・マリア・ノース村サン・マリア・ノース小学校
ハエン町ランラ村ランラ小学校
ハエン町ブトロッド村ブトロッド小学校
ハエン町ニユガン村ニユガン小学校

◆AFS-Virac, Catanduanes カタンドゥアネス州

1 基

簡易水道付きポンプ式井戸 1 基

カタンドゥアネス島の村々では、沿岸部に居住区があり、通常の井戸からは海水の混ざる水が汲み上げられる。そのため、山手に深井戸を建設し、モータで汲み上げて沿岸部までパイプラインで水を引くことができた。

カタンドゥアネス州サンアンドレス町リサル村
※NTT 労働組合東海総支部のワークキャンプで建設実施

ミャンマー

◆MAFS ミャンマー全域

2 基

山間部にて自給農業を営みながら生活を送っている人々が居住している地域。山間部に位置するために水へのアクセスが悪く、困難な生活を送っている。本年度は 7 基井戸を建設し、内 2 基が完成した。健康と衛生の改善と水くみの重労働からの解放が期待されている。

露天式井戸 1 基

サガイン県ホマリン町ホマリン村

給水タンクおよびパイプライン 1 基

ラカイン県トーングブ町ドーヌーサン村

Ⅰ．国際協力支援事業

ラオス

◆LPRYU ラオス全域	1 基
ポンプ式井戸	1 基

衛生施設がなく、衛生環境の悪い農村の学校に今年度は9基の井戸を建設し、内1基が完成した。268名の生徒及び教職員がこの井戸を使い、子どもたちには手洗いなどの指導が可能になり、子どもたちの衛生改善が期待される。

ビエンチャン県サイタニー地区ドンマーク・カイ村

建設中の井戸 53 基

インド	8 基
インドネシア	14 基
カンボジア	4 基
スリランカ	7 基
ネパール	3 基
パキスタン	1 基
バングラデシュ	2 基
フィリピン	1 基
ミャンマー	5 基
ラオス	8 基

2．調査研究

◆RWF バングラデシュにおける水問題対策及び研究

バングラデシュ工科大学の水と洪水対策研究所において、水問題に対して研究及び地域調査を行い、対策への取り組みを行っている、研究員生（主に大学院生）2名の奨学金及び研究調査費を支援。また、同大学教授のムンスール・ラーマン博士が行っている洪水対策研究においても研究費の支援を行った。

洪水対策の研究に関しては、バングラデシュの洪水対策として伝統的に使用されている、竹による帯状の構造物である「バンドル」のフィールドテストが順調に進んでおり、国の洪水対策の一つとして認められ、政府から支援がでるようになった。また、フィールドテスト地においては、現在地域の住民たちがバンドルを自主的に維持管理しており、当初の目的であった地域の住民たちの手で行える洪水対策が実施出来るようになった。

飲料水の問題に関しては、2010年1月にバングラデシュ工科大学の奨学生2名とともに、ムンシゴンジ県において、井戸水の代替水源を確保すべく試験調査を行った。川やため池を代替水源として、農村の人々でも安価で浄水できるシステムを構築するための調査ではあったが、どれだけ浄水したとしても川やため池を代替水源として利用することに住民たちが拒否感を示したため、今後もテストを繰り返しながら、住民たちが利用できるよう説得を行う予定である。

※四国化成工業株式会社による水質調査視察にて実施



完成した水道パイプラインの前に集まる村の人たち
(ミャンマー・ラカイン県)



農村の中学校に建設された給水式井戸（ラオス・サヤブリー県）



河川の水質調査（バングラデシュ・ムンシゴンジ村）

I. 国際協力支援事業

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

「教育」は人が生きていくための種となる。しかし、アジアの国々では、いまだ多くの未就学児や、途中退学の子どもが大勢いる。その原因は主に不十分な教育制度、加えて親の理解不足や家庭の経済事情によるもので、時に子どもたちは生活するために学ぶことよりも働くことを選ばなくてはならない。このような就学問題は、こどもの問題よりも社会的背景、経済的理由であることが多い。子どもにとって「学校で学ぶ」ことは、成長していく上では必要不可欠である。そのこどもの権利を支援するために「アジア里親の会」を通じ一人でも多くの子どもが基本的な教育を受けることができることを目指している。

本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。里親には対象の教育施設に通う子ども（里子）を紹介し、手紙などによる相互交流を行った。2009年度は363人の里子を支援。

アジア里親の会 里親決定状況 (2010年3月現在)

国名	2009年度里子数	里子累計数
インド	101	226
カンボジア	75	99
ネパール	110	143
バングラデシュ	66	150
フィリピン	11	11
合計	363	629

インド

◆BSVIA 日印友好学園コスモニケタン プライマリースクール 33名
【カルナータカ州ビジャプール地区】

日印友好学園コスモニケタンの教職員給料、制服、教材費などの運営費を支援。

◆SSH JAFS 教育支援事業 52名
【タミルナドゥ州ディンディガル地区30名・ナマカル地区22名】

学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身がHIVに感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子どもが学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援。

◆RUDYA JAFS 教育支援事業 16名
【マハラシュトラ州ガッチロリ地区】

マハラシュトラ州ガッチロリ県のパダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちを中心としてパダトラ小学校の寮生、生徒たちが就学できるための支援。

カンボジア

◆KAFS 教育支援事業 75名

【タケオ州、コンボンチュナン州、カンダール州】

コンボンチュナン州とタケオ州そしてプノンペン近郊のカンダール州にある小学校の運営支援、及び、子どもたちへの教材支援。里子を対象とした英語の課外授業なども行っている。

ネパール

◆GS-Nepal ビトゥリ村小学校支援 21名

【ノールパラシ郡ビトゥリ村】

ビトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ビトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援と学校運営支援。

◆ヤシャシュビ学園 54名

【カトマンズ郡シタパイラ村】

ヤシャシュビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、学校に通っていない子どもたちに就学の機会を与え、その生徒の学費を支援。

◆GS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 35名

【カトマンズ郡チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない子どもへの学費支援と学校運営支援。

バングラデシュ

◆AFS-Dhaka バンガバンドゥ小学校 20名

【ダッカ】

スラム街や低所得者用住居に住む子どもたちが初等教育を受けられるよう、教職員給料などの学校運営費及び、学費や制服、学用品などの支援。

◆BDP サンフラワープロジェクト 46名

【ダッカ・ミルプール地域、ガジプール地域】

ダッカ・ミルプール地域及び農村部のガジプールの子どもたちが個人負担費が多くなるために小学校以上の就学率が下がっている。それらの子どもが中等教育を受けられるよう支援。

フィリピン

◆ASI JAFS 教育支援事業 11名

【カビテ州ダスマリネス町バリパン】

スラム街でストリートチルドレンとして生活していた子どもたちが移転政策後の不安定な生活の中、小学校での教育を受けることができるように学費や学用品などを支援。また、ボランティアによる授業の補講を行った。環境教育のキャンプやユースリーダートレーニングのプログラムも併せて実施。

1. 国際協力支援事業

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2010年3月現在)

国名	2010年度建設数	校舎棟累計数
インド	—	20
インドネシア	—	2
カンボジア	—	39
タイ	—	10
中国	—	1
ネパール	1	18
パキスタン	—	2
フィリピン	—	7
ベトナム	1	3
合計	2	102

※学校数及び研修施設、コミュニティホール数を含む

ネパール

◆GS-Nepal 小学校図書室校舎建設事業 1棟

【ルンビニ県ノールバラシ郡ピトゥリ村スリーピトゥリ小学校】

ネパール政府の指導により小学校が8年生まで(現在の小学校は5学年まで)の受け入れ態勢を整えることが必要となってきたが、教室の補充などは学校での対応に任されている。貧農村のピトゥリ村スリーピトゥリ小学校は、村に一つしかないハイスクールは徒歩通学が困難である為に、6年生の就学率が低下することが問題となっており、その制度への対応が急務であったが自助努力では校舎の増設を実施できないため建設の支援をおこなった。校舎の完成により毎年1学年づつ増やすことが可能となり、中等教育への進学者の増加が期待される。

また、校舎増設を実施に伴い、トイレ建設分の土地を所有者より譲り受け、1棟のトイレの設置を行うことができた。衛生面が改善と、清掃活動を通しての、環境意識向上も期待できる。

※第35回ネパールワークキャンプで作業実施

ベトナム

◆VAFS 小学校教室建設事業 1室

【ベントレ県ジョン・トロム地区フォンマイ村集落】

既存の教室数が不足し、職員室を午前と午後の2部制にし、授業をせざるをえなかった学校に教室を一室建設した。この結果、2部制を廃止し、授業内容の向上に繋がった。

対象者:生徒約40名 職員2名

※ベトナムスタディーツアーで作業実施協力

(2) 教育環境整備

インド

◆BSVIA 日印友好学園コスモニケタン支援

【カルナータカ州ビジャプール地区ブルナプール村】

郊外の貧農地帯にある本会設立の日印友好学園コスモニケタ

ン小・中学校(小学校児童数297名、中学172名、計469名)の子どもたちの教育資金を提供することができた。

本会ボランティアの現地報告によると、今年度は前年度に比較して小学校28名、中学校11名、合計で39人もの入学希望者が増えたとのこと。その理由として先生たちの教育熱心さと子どもたちの成長、貧農の生活状態にもかかわらず、子どもたちの成績がビジャプール地区で非常によくなったことなどが指摘されている。例年、上級学校への卒業認定試験も100%近い合格率を維持している。尚、2010年1月より日本外務省の支援により職業訓練学校の建設が始まった。9月正式開校予定。

◆RUDYA 日印友好学園グラミン小学校

【マハラシュトラ州ガッチリ地区パダ・トラ村、ラバン・トラ村】

“森の民”といわれ、現在も原始的な採集生活を営んでいるアディバシー族の貧しい少数部族民の子どもたちが、適切な教育を受けることが出来るように2001年に完成した日印友好学園グラミン小学校。現在、小学生1～6年の52名がこの学校に通う。本年度は、家庭の事情から就学人数が13名減った。その多くは貧しく少年期になると家族の手伝いのために学校を辞めざるをえない。

今年度は村落の状況調査を行いながら、運営システムを見直し、就学率の向上とドロップアウト率の低下に努めたい。また、7年生のクラスが無いので、進学したい子どもは20km離れたチャモシー地区の学校まで行かねばならない。県の役所の許可を得て2010年度より7年生のクラスを設ける予定。図書室の併設など学校設備の整備に伴い行政の認可が受け易くなってきていることは喜ばしい。数年後の州政府の私学助成(基本的に、教員の給料保障と授業料の免除)を目標としている。

本年度は、学校に通う生徒52名の制服及び教科書、学用品の供給、寮にかかる諸経費、及び教職員7名の給料を支援。

3. HIV/AIDS子ども感染予防

インド

◆SSH HIV感染子ども支援 7家族

【タミルナドゥ州ナマカル地区】

貧困のゆえに拡大しつつあるHIV/AIDS感染者とその家族を支援するために、「南インドHIV感染子ども支援」プロジェクトを本年度より実施。このプロジェクトに取り組む本会の現地提携団体のSSHより、10家族分の支援の要請があった。HIV/AIDS感染者支援問題は、現在取り組んでいる井戸(飲料水供給支援)及び、教育里親に並ぶ重用な支援課題となってきた。

各地の会員にHIV子ども支援組織をつくるべく、「JAFSいのちの会」を呼びかけた。しかしながら現在のところ-アジア里親の会とこのプロジェクトが同一地域であり重なって見えること、及び支援の内容が家族を含めた支援であり、日本人からすると、取り組みにくいものと受けとめられたようである。説明不足と支援広報における工夫不足を反省する次第である。

JAFSへの支援分担要請のうち、本年度は7家族を支援した。

Ⅰ．国際協力支援事業

４．栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育環境整備

ネパール

◆ラリット福祉センター JAFS 教育支援事業

【バグマティ県ラリットプール地区】

孤児や母子家庭の子どもを対象に教育の機会を提供している社会福祉団体の学校。教師 2 名の給料を支援。自力で就学することが困難な子どもたちが、学ぶ機会を得られるように支援を行った。

◆GS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村、シンドゥパルチョーク郡チョウワスポカリ村】

ネパールの農村では経済状況が不安定なため、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。特に成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分な状態である。健康状態や成長が改善されることを目的として、ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 200 名の生徒を対象に、毎週木曜日に卵と牛乳の給食を継続的に支援を実施（15 年間）。学校のプログラムに組み込まれるようになり、子どもの栄養不足を補うだけではなく、様々な教育的要素を持つようになってきている。今年度は、新たに東部のタマン族の村、ブダレスワール小学校でも給食の実施を試みた。スリーサンティ小学校のように地域教育の改善に役立っている事例から、今後、新規の小学校でも定着していくよう指導を行っていく。

◆GS-Nepal チョータラ村母子保健向上支援事業

母子保健事情改善プロジェクト開始以来の現地の担い手となってきたビマラ・ナピット・マハラジャンさんを招聘、3 ヶ月間に渡り、研修を行なった。大谷助産院の協力を得て、自然分娩を主とした研修によりスキルアップを図ることができた。自然分娩の知識を向上させ、帰国後、地域でお産介助する TBA や保健婦に伝えること、ネパール山間部の農村でのお産時に起こり得る様々なケースに対応できること、現地での人材育成にも繋がるのが今後期待できる。

また、チョータラ国立病院産婦人科病棟は、マオイストによる本館爆破の影響で多くの亀裂が入り、雨漏りをするなど病院の機能を果たすことが難しくなっていたが、今年度、屋根の上にコンクリートを張り、雨漏りを止めることができた。

フィリピン

◆ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町パリバラン】

2004 年度より支援を行ってきたマニラ市内の国鉄の線路沿いに形成されたスラム街、“フィリピン・ナショナル・レイルウェイ・コンパウンド(PNR Compound)”は、フィリピン政府の政策により、2007 年の全国総選挙に伴い一斉に強制撤去された。南に約 60km、車で 2 時間半のカビテ州ダスマリネス町への移転を余技なくされた。仕事場であった都心から生活の場が遠く離れ、多くの人々は失職し、子どもたちは学業の場を失うこととなった。そのために父親はマニラに戻り、家族離散のケースが多くみられた。

アジア里親の会のプロジェクトとして子どもたちの教育を支援、また、環境教育のキャンプやユースリーダートレーニングのプログラムを実施。その他、収入が低くても栄養のある食事ができることを目的として、母親を対象とした家庭菜園の指導、栄養改善の指導を試みている。



コスモニケタン学園教員宿舎
(インド・カルナータカ州ビジャプール地区)



ストリートチルドレンを対象とした教育支援
(フィリピン・カビテ州ダスマリネス町)



学校給食を通じた栄養改善
(ネパール、シンドゥパルチョーク郡チョウワスポカリ村)

I. 国際協力支援事業

I-C. 貧困対策事業

1. マイクロクレジット支援・能力開発

インド

◆RUDYA 女性の相互扶助グループ (SHG) 事業

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区ラクハムプール村・ポリ村】

アディバシー少数民族が多数を占めるガッチロリ地区において、様々な機会や権利が奪われている女性を対象に生活改善に向けた取り組みを行っている。相互扶助グループ (Self Help Group) の普及と農村協同組合 (Cooperative Society) である。

地域の人々の生活自立を目的のため、資本金や貯蓄などを貸し出し、小規模産業を始めるきっかけ作りを行った。また、貯蓄研修や、法律に関するワークショップ、環境保全に関するワークショップ、有機農法普及のためのワークショップなどを中心にして実施し、それぞれのニーズに対する貸付などを行った。

カンボジア

◆KAFS 少額貸付事業 69 世帯 14 グループ/5 人

【タケオ州トレン郡ブランバイマム地区クランカンダール村】

本年度は地域の住民を対象に少額貸付を行なった。主な使用目的は、肥料の購入や養鶏・養豚を行うためである。10 年以上もこの事業は継続されており、多くの住民たちが生活の様々な局面においてこの事業を活用するようになってきている。また、村の中心を担う村落組合のメンバーも返金利息の一部を使い、灌漑用のため池や井戸作りを行うなど、自らがリーダーシップをとり、コミュニティの改善に努めてきた。

2. 職業訓練

インド

◆BSVIA 職業訓練学校開設事業

【カルナータカ州ビジャプル地区ブルナプル村・マダバービ村】

電気技術や機械整備技術を身につけるための職業訓練学校の開設準備を進めた。認可基準を達成するために各種の設置準備と、正式な職業訓練学校 (ITI) としてのカリキュラムの整備を行った。結果、12 月に中央政府 (デリー) の正式認可を受けることができ、2010 年 9 月より正式開校予定。定員 60 名。2 年間コース。現在、外務省の無償資金援助を受け新校舎 (作業場) を建設中。

この学校の開設で、貧農の家庭の子どもも職を得るための技術が手につけられ、勉学への大いなる励みとなることが期待される。今後の課題は質の維持と良い教員の安定確保である。

フィリピン

◆ASI 農業トレーニングセンター建設

【リサル州カルダナ町タリム島ハノサ村】

環境に配慮した農業の方法として、有機農業を女性グループ

が学べる場として、農業トレーニングセンターを建設。元々ラグナ湖近隣にあったセンターが 9 月の台風で倒壊し、利用できなくなっていた。災害復興支援の一部として、村の内陸部の土地を確保し、実地で学べるように畑と家畜小屋も隣接している。すでに鶏、山羊を飼い、野菜の栽培も始め、野菜や家畜を育てて得た収入は女性グループに還元され、さらなる活動に充てられる。

※第 11 回フィリピンパンダン国際交流キャンプで建設実施

3. 保健衛生指導・医療

(1) 簡易トイレ建設

(2010 年 3 月現在)

国名	2010 年度完成	累積
インド	0	1194
カンボジア	0	4
バングラデシュ	0	271
パキスタン	0	6
ネパール	0	26
タイ	0	9
合計	0	1510

(2) 医療支援

ネパール

◆GS-Nepal スクテ診療所 運営支援事業

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡スクテ村】

医療機関の無かったスクテ村に 1995 年に本会の支援により建設されたスクテ診療所。しかし、反政府グループによる占領が原因で一定期間その機能を失っていた。2004 年の再開後にも自主運営することが困難な状態が続いていた。そのため、診療所の働きに従事している看護師 2 名の給与を支援。自主運営できることを目指す。その一歩として、スクテ診療所のバースセンター (助産所) 登録を計画し、実施検討中。

◆GS-Nepal 母子保健向上支援事業 TBA (伝統的お産介助者) 支援

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡チョータラ村】

国土の 80% が山間地であるネパールでは、医療機関が近隣に無いために病院を利用することができず、お産には TBA と呼ばれるお産介助者がサポートする自宅分娩が多い。しかし、近年 TBA に対しての政府支援が途切れ、活動の継続が困難になった。農村でお産をする女性たちにとって TBA は必要な存在で、リスクの高い出産を安全な出産に導く役目を担っている。今年度は、出産に必要な清潔なタオル配布と、村訪問して TBA の現状把握を行い、フォローアップを行った。同時にバースセンター (助産所) 設置の可能性をリサーチした。

I. 国際協力支援事業

I-D. 環境事業

地球規模で温暖化が進む今日、植林事業は温暖化防止、地球環境保全に重要な役割を果たしている。植林は地下の保水力を高めるという効果があり、私たちが生きていく上で必要な水の確保にも繋がる事業である。

これまで本会は「井戸を贈る運動」として水源を求めて安全な飲料水を贈ってきたが、2002 年度より、水不足の根本的な解決策として、また、地球環境保全運動の一環として、「水源の森をつくらう」をテーマに、毎年苗木を植え、「JAFS 水源の森計画」を行なっている。併せて、防災を目的とした植林や、コミュニティーフォレストとして荒地を住民の手で緑化し、地域に役立つ森づくりを目的とした植林を実施している。

1. 植林・水源涵養林養育

(1) 植林

(2010 年 3 月現在)

国 名	2009 年度植林	累 積
インド	—	712,205
インドネシア	—	193,960
カンボジア	—	6,000
スリランカ	—	400
タイ	—	20,500
中国	142,500	949,025
ネパール	3,484	284,161
パキスタン	—	4,560
フィリピン	1,505	78,405
バングラデシュ	—	26,500
合計	147,489	2,275,716

フィリピン

◆AFS-Pandan パندان水源の森プロジェクト 755 本

【アンティーク州パナイ島パندان町】

2003 年度より開始した水源の森保全プロジェクト。今年度は、ジャックフルーツ、ランソネス、ランブータン、グヤバノ、アボカド、カラマンシー、マコパ、アティス、サントル、カシュー、グアバ、マボロ、ポメロ等の果樹計 755 本の植林を行なった。

これまで植林した木々の成長は確実に見られており、今後収入源となる果実が期待される。また、現地の女性たちによる維持管理の体制ができてきており、月 1 回水源管理グループによる草刈り、苗木の成長の確認が行なわれている。

※第 6 回京都晴星高等学校ワークキャンプで植林実施

※第 11 回フィリピンパندان国際交流キャンプで植林実施

◆AFS-Virac, Catanduanes パロンバネス島水源の森プロジェクト

750 本

【カタンドゥアネス州カラムラン町トイトイ村パロンバネス島】

漁村の島、パロンバネス島。島の 7 割は、焼畑、森林伐採が進み、現在では禿山が広がっている。その影響は表土の侵食、洪水の増加、サンゴ礁の破壊、水不足、海の汚染、魚の減少などとして出てきている。

昨年に引き続き、植林プロジェクト 4 年目を迎える。天然環境資源省の専門家にアドバイスを受けながら、島の総合的な環境保全を行なった。年々、地元住民の意識向上と協力体制の高まりが感じられるようになってきた。水源付近に管理小屋を設置し、水道と苗木の双方を維持管理している。

今年度は、コナッツ 250 本、ブラックベリー（イゴット）200 本、オゴブ 50 本、ナラ 250 本、の計 750 本を植林。

※第 4 回フィリピンパロンバネス国際ワークキャンプにて植林実施

中国

◆CHAFS 甘肅省鎮原県の農村地域の女性たちによる

植林モデル事業 82,500 本

【甘肅省鎮原県】

経済発展により、労働力が都市部へ流出していく中、「社会林業」に焦点を合わせ、村に残った労働力である女性たちを中心に環境保全を通じた地域の再開発を行うために当事業は実施されている。この地域の植林は 2007 年に始まり、3 年目を迎える。

女性による相互扶助グループが形成され、植樹の維持管理及び、トレーニングなどが実施された。地植え、植栽、灌水から保育、その後の維持管理に至るまで、円滑に行った。

本年度の造林面積は 50ha であり、油松、コノテガシワ、杏、針エンジュ、クルミなどを計 82,500 本を植林。慢性的な干ばつが続く中でも灌水の技術を向上させ、現時点の活着率も 90%と非常に良好である。また、過去 2 年（計 100ha 165,000 本）の植林も活着率も平均 85%と、順調に成長しており、女性の相互扶助グループによる維持管理の技術の向上と意識の高まってきている。

本年度にて一旦当事業を終了し、技術及び意識の向上した助成の相互扶助グループにより、今後は自主的に管理されることになる。

※平成 20 年度日中民間緑化協力委員会資金を受ける。

◆CHAFS 甘肅省小隴山の長江・黄河上流のコミュニティによる

環境保全植林モデル事業 60,000 本

【甘肅省天水市】

本年度から開始された事業であり、当初は長江・黄河上流に位置する小隴山の水源保全のための植林事業としてスタートする予定であったが、同地区が四川地震の被災地となったために、事業内容を変更し、水源保全及び災害復興支援事業としてスタートした。

本年度は油松、白皮松、遼東ナラ、胡桃を合計 60,000 本植林。事業地が胡桃の産地であることから、胡桃の植林に関してはオーナー制度をとっている。胡桃を植林し、維持管理して、成長に成功させた者がその胡桃を販売する権利を与えることにし、四川地震の被災者

Ⅰ．国際協力支援事業

及び貧困層の人々が研修を受けながら植林できる体制を整備した。

また、被災者を対象にした植林システムの整備を行い、豊富な降雨量にも助けられ、植林の活着率は90%。油松及び白皮松を密植した。今後は、密植された植樹の移植時期をモニタリングしていく必要がある。

また、被災者が植えた胡桃が成長した際の販売網を見つける必要がある。市場調査を継続し、市場確保のための方策を出すことが今後の課題である。

※平成20年度日中民間緑化協力委員会資金を受ける。

ネパール

◆GS-Nepal コミュニティー フォレスト 1,000本

【レンピニ県ノールパラシ郡ピツリ村】

環境を守るためには、村の住民たちが自分たちの手で森を守る考えがあるかどうか深く左右される。地域がコミュニティフォレストに取り組んでいることで、苗木の定植に大きく寄与している。かじつ販売による収入を現地の学校の運営費、村の必要経費に当てることももう一つの目的である。

今年度は、果樹のグァバ、みかん、ロブシー、水源涵養林としてイビリビ、アショク、タシ木を植林した。

◆GS-Nepal コミュニティー フォレスト 1,634本

【バグマティ県バクタプル地区スダル村、カブレ郡トクチャ村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を、昨年度に引き続き実施。村自体ではコミュニティフォレスト以前より実施しているが、一種類の木の植林によって、森の植生が異常になっていた。森再生と、学校の周辺の地すべりを防止を目的として植林を村人と小学生の参加を基本条件として実施。地域の女性グループも参加して、ネパールでは梅干のように慕われ食卓に欠かせないロブシーの木を始め薬草として用いられるドゥビサツラ、コブール、果樹のグァバを計1634本植樹した。

※第34回ネパールワークキャンプで植林実施

◆GS-Nepal コミュニティー フォレスト 850本

【バグマティ県カトマンズ地区チュニケル村】

地域住民の手による植林活動、コミュニティフォレストづくりを1996年より実施している。住民の環境意識の向上が高まった中、青少年の環境意識を高めるため、グリーンズスカウトの活動として近隣の中高生が植林活動を実施。今年度は7月にカインヨ、ウッテース、サツラ、マサラ等の850本の水源涵養木、果樹、農業用木を植林した。

◆GS-Nepal 育苗センター

【ナラヤニ県チトワン郡ラトナナガル市5地区】

「朝日読者の森」として森林破壊が著しいネパールにて2001年より森作り事業を実施。5年計画の終了後、農村地域に貢献できるセンターづくりと地域の森林面積の復活を目指してJAFSランドと称したエリアにアグロフォレストリーを実施。維持管理と共に、ネパールでの植林活動を広げる為に、3,000本を育苗。各植林プロジェクト地の苗木としても利用。少ない土地で効果的な収穫を得られるために、モデル農園づくりを実施している。現地の農民対象のトレーニング実施に向けて調整中。朝日新聞社 朝日会の継続支援により実施。

2．環境改善・国際グリーンズスカウト

国際グリーンズスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986年に本会が提唱。

アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFSの海外ネットワークを通じて国際的に展開。アジアの各地に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。

以下は、各国(日本を除く)の活動状況

インド

◆RUDYA 環境意識改善プログラム

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区】

環境保全の意識を高めるために、サンジバニ高校において、約200名の生徒、教員を対象にAFSネットワーク、国際グリーンズスカウトについての紹介を行った。また、具体的には、植林の意味、気候変動による地球温暖化、ニームやバニアンといった薬用の木々の効用を説明した。今後、学生による植林活動の参加が期待される。

ネパール

◆GS Nepal ローカルGS組織づくり

【バクタプル郡スダル村、ソエンブー村、ピツリ村、チュニケル村】

農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカルGSづくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。また、12月29日にGS活動を行う3校の小学生が集合し、環境活動の成果と今後の理想の村作りに関して発表を行なった。昨年に引き続き、学校の美化活動、住居周辺の道路清掃活動を実施。活動3年目をむかえ、子どもたちへ環境活動の定着が見られると共に、学校全体の意識が高まり、自信が出てきていることが伺える。

ピツリGSは、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピツリ小学校の生徒と地域住民が協力して行う。

チュニケル村GSは、コミュニティフォレストの活動も子どもたちが地域の環境保全に繋がるとし、毎年GSとして植林活動を実施している。

フィリピン

◆ASI 有用微生物を活用した環境保全プログラム

【リサール州アンゴノ町、ピナゴナン町、カルドナ町】

2008年7月にリサール州ピナゴナン町で行なった有用微生物(EM菌)の活用と有機農法のセミナーをきっかけに、地域青少年によるグリーンズスカウトが組織。地元で取れる有用微生物を研究し、確保と培養を行なった。また、ラグナ湖周辺の漁業、農業、畜産業を営む住民を対象に、水質浄化や収穫率の向上、畜産の汚臭軽減に役立つ有用微生物を活用した環境に配慮された生業の方法についてのセミナーを開催。

また、ラグナ湖の浄化を目的とし、ラグナ湖に注ぐアンゴノ川の清掃活動を実施。有用微生物を含んだボール(ばかし)を地域小学校、女性グループなどと協力し、35,000個を作成、川へ投入。水の汚濁度と汚臭度の減少、水質の向上と小魚の生息が観察された。

1. 国際協力支援事業

◆ASI グリーンスカウト活動紹介プログラム

【リサル州アングノ町、ピナゴナン町、カルドナ町、カピテ州ダスマリネス町バリバラン】

16 歳以上のグリーンスカウトメンバーの地域代表（リーダー）20 名を対象として、自己能力開発・環境保全セミナーとワークショップを10 のカテゴリー別に実施。グリーンスカウト地域代表メンバーはその学んだ内容を地域に持ち帰り、年下の子どもたち平均10 名に対し同様のプログラムを実施した。

それにより、約 200 名の子どもたちにグリーンスカウトの活動の意義・活動が広まった。

◆有機農法・環境保全研修

【京都府綾部市】

フィリピン・リサル州で環境保全活動を行っていくことを目的とし、2009 年 12 月の 1 ヶ月間、アジア社会科学院のスタッフ、クリストファー・ヒュネス氏を日本に招聘し、有機農法・環境保全の研修を行なった。来日期間中に、有用微生物の活用法、コンポストの作成と維持管理法、植林、有機農法、協同組合で経営されている道の駅、滋賀県の琵琶湖の水浄化プログラムや循環型社会生活など様々な場所を訪れ、多くの専門家の教授に研修を受けた。

フィリピン帰国後、これらの学びを現地に適応させる形で多くの地域住民と一緒にあったプログラムの実施が期待される。

■AFS-Pandan 土と水と緑の学校 環境保全教育プログラム

【アンティーク州パナイ島パンダン町】

過去 2 回に渡りパンダン町で行われた土と水と緑の学校。それぞれの参加者が積極的なボランティアメンバーとして、水源地の保全のための草刈り、苗木の育成などを行った。また、現地自治体もグリーンスカウトの活動に協力体制をとっている。

地元ギア小学校の PTA の女性たちは、苗木を育てることを目的として、ミズの培養や落ち葉などを利用した腐葉土の開発を行った。またそのための落ち葉は、生徒が清掃活動を行って集めたものを利用している。青少年を対象にグリーンスカウトメンバーを組織し、植林などのボランティア活動などに積極的に参加している。

■KALPI 財団 環境意識啓発

【ヌエバエシハ州サンレオナルド】

1. 年間を通じて、環境に関する世界中の記事を AFS ニュースレターとして AFS メンバーに発信。また併せて、政策提言も行っている。
2. 3 月 29 日のアースアワー（8 時-9 時）には、地方行政と学校に呼びかけを行い、温暖化ガスの排出を少しでも少なくするために、1 時間の消灯を行った。
3. 地方行政や団体に対して、KALPI 財団が環境についてのコンサルタントの無料提供を行うことを呼びかけた。

3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

インド

◆BSVIA ハイブリッド発電機設置事業

1 基

【カルナータカ州ビジャプール地区】

計画から 3 年、建設チームによってハイブリッド発電（風力発電・太陽光発電の複合利用）が一部完成した。

64 名の生徒たちが宿泊しているホステル、教師の宿舎などローソクの灯りから、消える事の無い光が灯った。

ネパール

◆GS Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業

340 基

【ルンビニ県・バグマティ県】

人口増加と同時に森林破壊が進み、その歯止めとしての代替燃料の確保が急務となってきている。資源が少ないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスの普及が、確実な燃料確保につながることを期待されている。農村に住む人々の生活改善（薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善、発酵後のスラリーは農業に欠かせない堆肥となる）にも大きく寄与している。

また、講習会を実施することで、住民のバイオガスプラント設置普及に対する理解と環境問題への関心に繋がっている。結果として近隣村にも理解が広がってきている。

効果として、1 基の設置につき、薪の年間使用量と 1 世帯当たり 4,000Kg の使用量の内 70～90%削減することができる。このことは、国土の 30%台にまでに減少（以前は 70%）した森林面積の回復にも繋がる。同時にトイレの併設も進み、農村地区での衛生向上にも繋がっている。効果は広がり、設置希望が年々増大している。

・ノールバラシ郡ビトゥリ村	55 基
・ダーディン郡	115 基
・バクタプール郡スダール村	131 基
・カブレ郡トクチャ村	34 基

※内、335 基は平成 20 年度国際ボランティア貯金に係る寄附金の配分を受ける。

※かんでん NGO ネットワークきょうと ネパール第 4 次ワークキャンプ実施により継続的支援を受ける。

【2009 年度 計 340 基設置 累計 870 基設置】



設置されたバイオガスプラントにて火をおこす村の女性
（ネパール、ダーディン郡ムラリバンジャン村）

I. 国際協力支援事業



少隴山にて油松の植林を行っている村の男性（中国・甘肅省天水市）



黄土高原に育つ杏林
（甘肅省、鎮原県）



果樹を植えて水源の森を守る子ども
（フィリピン・アンティーク州パンダン町）



水質浄化のための有用微生物の入ったボールを作成
（フィリピン・リサル州ピナゴナン町）



環境プログラムでリサイクル服で学習する子ども
（ネパール・ノールパラシ郡ピトゥリ村）



ハイブリット発電を設置しているところ
（インド、カルナータカ州ビジャプール地区）

I. 国際協力支援事業

I-E. その他事業

1. サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は、年間 50 万台に上り、うち約半数は引き取り手がないために大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リデュース・リユース・リサイクルの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005 年度より、社団法人アジア協会アジア友の会が事務局となり事業を実施。大阪府などがメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計 1,380 台

堺市 240 台、八尾市 360 台、寝屋川市 50 台、泉佐野市 200 台、阪南市 120 台、泉大津市 150 台、高石市 130 台、松原市 130 台

◆自転車の寄贈 計 1,380 台

タイに 1,380 台の自転車を寄贈。事業開始以来、アジア、アフリカの 9 ヶ国に 24,848 台の自転車を贈ることができた。

タイ 1,380 台

7 月	ナン県	340 台
10 月	ランパーン県	530 台
3 月	ナン県	510 台

自転車は地域の子どもたちを中心に、農民や警察、地方行政職員等に寄贈され、活用されている。タイ北部の村々の学校は、歩いて通うには遠過ぎる場所に住んでいる生徒が数多い。例えば 10km 離れていると、片道 2 時間以上かかることになる。そんな子どもたちが自転車を使うことにより、経済的で、そして安全に毎日の通学ができるようになる。また、農村地帯では水の運搬など日々の生活に利用され、貧しい家庭の重要な移動手段となっている。また、保健婦の移動手段としても役立っている。さらに、地域の環境保全も兼ねた観光事業の促進や地球温暖化のキャンペーンにも活用され、新たな社会貢献の分野で見直されている。

贈られた自転車は学校や村人たちのグループで管理され、利用者が卒業し、利用しなくなった後も引き続き活用されている。

サイクル・エイド事業は現地の新聞やラジオ等を通じて広く紹介され、バンコクの港からタイ北部まで自転車を輸送する協力者が徐々に増えてきている。協力者が集まり、タイのサイクル・エイド委員会が組織され、自転車が効率的かつ効果的に役立てられるように事業が進められている。

(2) 事業推進のための広報活動の実施

◆事業 PR 用パンフレットの作成・配布

(社)アジア協会アジア友の会 HP による情報発信

<http://www.jafs.or.jp/cycleaid/index.html>

大阪府 HP による情報発信

<http://www.pref.osaka.jp/kokusai/cycleaid/index.html>

JAFS 機関紙「アジアネット 103 号」に掲載、季刊紙サイクル cycle no.03 に掲載、FM COCOLO 出演、その他、各種イベントとの連携、企業への協賛金依頼。平成 20 年度は関西電力株式会社、大阪ガス株式会社から協賛金をいただき、海上輸送費として活用。

また、大阪府自転車軽自動車商業協同組合からは修理キットの無償提供、港までの運搬の協力を受ける。

また、下記イベントにおいて活動紹介、募金活動を実施。

◆堺大魚夜市

日程:2009 年 7 月 31 日(金)

場所:大浜公園

主催:堺大魚夜市実行委員会

来場者数:約 240,000 人

◆泉大津フェニックス野外コンサート

日程:2009 年 8 月 30 日(日)、9 月 5 日(土)

場所:泉大津フェニックス

主催:泉大津フェニックス夏フェス 09 実行委員会事務局

来場者数:合計 約 20,000 人

◆サイクル・エイド募金箱の設置

再生自転車の海外輸送費を確保するため、大阪府庁、大阪府パスポートセンターに募金箱を設置し、府民に寄付の呼びかけをおこなった。

◆大阪家庭裁判所「自転車盗難被害を考える講習会」

サイクルエイド事業の啓発活動を実施

日程:11/17、12/15、2/16、3/18

◆FM COCOLO 番組「Tea & Biscuits」PR

日程:2009 年 12 月 10 日 12:00~12:30

DJ:加美 幸伸氏

テーマ「大阪の放置自転車について」の中でサイクル・エイド支援事業活動について報告

◆寝屋川多文化フェスタ

日程:2010 年 3 月 14 日(日)10 時~15 時

場所:寝屋川市立市民会館

主催:ねやがわ発!!みんなおいでよ多文化フェスタ実行委員会

後援:寝屋川市、寝屋川市教育委員会他

来場者数:1,000 人

◆大阪サイクルイベント OSAKA ゆめランド 2010

日程:2010 年 3 月 14 日(日)10 時~15 時

場所:寝屋川市公園

主催:大阪サイクルイベント実行委員会他

来場者数:17,000 人

I. 国際協力支援事業

(3)平成 21 年度サイクル・エイド支援会議の開催

日程:2010 年 3 月 30 日

場所:大阪府庁内 会議室

出席者:11 名(委員 6 名(代理出席を含)・事務局 5 名)

内容:平成 21 年度事業報告、決算見込み、現地状況報告、平成 22 年度事業計画(案)及び予算(案)、サイクル・エイド事業の今後について

※(財)JKA による「競輪公益資金」の補助を受けて実施

2. 災害復興

◆PAFS パキスタン北西部の内戦による避難民への緊急支援のための初動調査事業

2009 年 5 月、パキスタン政府によるパキスタン北西部のタリバン兵掃討作戦により、約 230 万人の避難民を出した。家財道具や食糧をすべて残し、避難したために、食糧や生活物資が不足し、生活環境が劣悪化していた。現地の要請を受け、本会は緊急支援事業を開始すべく本会スタッフ 2 名を派遣し、調査を行った。

しかし、政治的な混乱と物資のニーズが流動的であること、また、政府との調整が機能せず、緊急支援は中止せざるをえなかった。今後の課題として、避難民の流動的なニーズと支援内容及び政府との調整を円滑に行えるシステムの構築が必要である。

期 間 :2009 年 5 月 17 日～25 日

調査地 :北西辺境州マルダン県、ペシャワール県

調査対象:避難民キャンプ、避難民が流入したホストコミュニティ

マルダン県内の病院、UNHCR、北西辺境州社会福祉局、マルダン県社会福祉局

※(特活)ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施

◆ASI フィリピン水害被災者支援 初動調査及び生活物資配布事業

2009 年 9 月 26 日にフィリピン沖で発生した台風 16 号「ONDOY」はフィリピンを直撃した。発生した水に対応して、被災者への緊急支援事業を開始すべく、現地の被災状況や被災者の状況確認を行いながら、緊急に必要な物資の配布を行い、被災者の生活の改善を行った。また、支援地では、浸水状況が 12 月までひかず、多くの被災者を生んだ。詳細なるモニタリングを行い、刻々と変わる現地の状況にあわせて物資を選んだことで、支援緊急度の高い家庭に対して必要とされる支援を行なうことができた。

期 間 :2009 年 10 月 3 日～10 月 17 日

対象地 :リサール州アンゴノ町、ピナゴナン町、カルドナ町、タリム島の 20 ヶ村

内 容 :米、缶詰、砂糖、粉ミルク、風邪薬、鎮痛剤、消毒薬、薬用石鹸のセットを配布

受益者 :20 ヶ村の 1500 世帯(約 7,500 人)

※(特活)ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施。

◆ASI フィリピン水害被災者支援 リサール州における水害復興支援事業

2009 年 9 月 26 日にフィリピン沖で発生した台風 16 号「ONDOY」はフィリピンを直撃した。被害は 8000 世帯の家の倒壊や生活の糧であったボートや魚網の喪失まで及んだ。

3 ヶ月間に渡る浸水により、地域住民の力だけでは到底復興が不可能な状況に陥っていた。生活の基盤を確保し、一日でも早い自立に向けて、家屋建設のための建築資材、モーター付きのボート、環境に配慮された魚網を配布した。また、実施に伴い、現地に従来よりある互助制度(バヤニハン)での家屋建設のワークショップ、環境に配慮された魚網の利用法についてのセミナーを複数回開催した。それにより、自助努力を促しながら、将来的に現地に残っていく技術の移転、共有も行なうことができた。

期 間 :2010 年 3 月 4 日～4 月 1 日

対象地 :リサール州アンゴノ町、ピナゴナン町、カルドナ町、タリム島の 15 ヶ村

物資配布:建築資材、ボート、魚網

受益者: 444 世帯(約 2220 名)、グループ

※(特活)ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施。

◆AFS-Aceh スマトラ島西部パダン沖地震被災者支援 初動調査及び生活物資配布事業

2009 年 9 月 30 日にインドネシアのスマトラ島西部を直撃した地震に対応して、被災者への緊急支援事業を開始すべく、現地の被災状況や被災者の状況確認を行いながら、緊急に必要な物資の配布を行い、被災者の生活の改善を行った。

POSKO(被災者救援ユニット)との密な調整と協力により、被害状況、緊急度に応じて優先順位、輸送体制緊急物資の確定等の現状を正確に把握し、迅速にかつ混乱を起こさず、支援事業を展開することができた。また、被災者も自らがこの支援事業に参加し、当事業に対して協力を行った。その結果、復興への道を自らが築く機運が高まり、モチベーションの向上に大きく寄与した。

期 間 :2009 年 10 月 3 日～10 月 17 日

対象地 :パリアマン・スラタン郡タビン・ルントゥール集落

第 4 コト・アウル・マリンタン郡バトゥ・バサ村

スンガイ・ガリンギン郡バトゥ・ガダン村

スンガイ・リマウ郡ビンジャウアン村

内 容 :

・仮設公共用資材配布

テント 2 張(小学校)、シェルター建設用資材、用具 50 組

・水配布事業

ペットボトル水配布 717 世帯、井戸修繕・パイプライン設置(5 ヶ所)

・食糧配布

米 20Kg・調味料、食用油、カップ麺等 717 世帯

・生活物資配布

蓋付きポリバケツ、ブルーシート、タオル、ブランケット等 717 世帯

※(特活)ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施。

◆AFS-Aceh スマトラ島西部パダン沖地震被災者支援 パダン・パリアマン県に於ける飲料水・生活水確保の為に支援事業

2009 年 9 月 30 日にインドネシアのスマトラ島西部を直撃した地震に対応して、上記の事業を実施した。さらに、地下水源・湧水点を利用した、水供給システムを整備し、緊急時の飲料水・生活水を確保することで、生活の基本的な部分の安心を築き、復興へ向けて住民同士で協働する余裕を生み出す事で被災者の生活の改善を行った。

本支援事業を通して、小学校を中心とした被災コミュニティに

Ⅰ．国際協力支援事業

おける水供給システムを整備することが出来た。また、住民による協働作業を実施することが出来、被災者の益々の復興へのモチベーションを高めることが出来た。この水供給システムはニーズが高く、今後、これらのニーズをどのように埋め、上記同様、どのようにして復興のモチベーションを高めることが可能なのが、大きな課題となっている。

期 間：2009年12月2日～12月31日

2010年2月5日～3月24日

対象地：パダン・パリアマン県 ピンジャウアン村、バトゥガダン村、バトゥバサ村

内 容：

・飲料水供給事業（井戸・パイプライン建設）10基

受益者：約5,000人

※（特活）ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施。

◆バングラデシュにおける寒波による被災者支援事業 BDP

2010年1月、異常気象による大寒波がバングラデシュ全域を襲った。本会の支援地の一つであるバングラデシュのポリシャル県も平均気温から15℃以上下がり、霧が昼夜間わず覆った。この影響により、暖かい衣服を持たない（従来は暖かい衣服を持つ必要がない）老人や子どもが風邪や発熱、肺炎などを起こす症状に悩まされていた。本会は現地の要請を受け、バングラデシュのポリシャル県の農村の子どもたちを対象に暖かい衣服を配布した。

現地の要請から迅速に対応し、速やかに衣服を配布することが出来、対象となった子どもたちは安心して学校に通うことが出来た。また、迅速に対応した結果、風邪や発熱、肺炎の影響も最小限にとどめることができ、子どもたちの健康の改善に大きく寄与した。

期 間：2010年2月1日～2月8日

対象地：バングラデシュ・ポリシャル県

受益者：約1,000人

内 容：セーター類の衣服の配布

3．A F S 部会運営助成

本会の国際ネットワークの各国部会（NGO）の活動を強化することは、本会の事業の柱の一つである。しかし、発展途上国ではNGOの自己資金調達が困難であり、本会の助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。

◆RUDYA（インド）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

◆BSVIA（インド）

運営費及び日印友好学園コスモニケタンの経費を一部補助。

◆HDSI（インド）

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助した。

◆KAFS（カンボジア）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

◆TAFS（タイ）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所経費も本会で負担。

◆SARVODAYA（スリランカ）

サルボダヤの組織の中で地域開発を実施している農村開発支部（CCBU）のプログラムを総括的に支援。村の中で様々なワークショップ、無償奉仕キャンプを行い、村の人たちの自立を支援。



サイクル・エイド 自転車贈呈式
（タイ）



災害復興支援 井戸を前にした子どもたち
（インドネシア）

資 料

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

本年度は4カ国で10回に亘って実施し、延べ91人が参加した。以下、実施日時順による。

1. 第34回ネパール国際ワークキャンプ (ネパール)

期 間:2009年8月7日～8月15日

場 所:バグマティ県バクタプール郡スダール村 カブレ郡トックチャ村

参加者:5名

内 容:植林、環境プログラム、子どもとの文化交流会、バイオガスプラント設置及びプロジェクト視察

2. 中国甘肅省天水市植林ワークキャンプ (中国)

期 間:2009年9月7日～9月11日

場 所:甘肅省天水市

参加者:3名

内 容:植林、交流

3. 第6回京都暁星高校ワークキャンプ (フィリピン)

期 間:2009年9月21日～9月28日

場 所:パナイ島アンティーク州パンダン町

参加者:18名

内 容:植林、交流

4. かねでん NGO ネットワークきょうと

第4次バイオガスワークキャンプ (ネパール)

期 間:2009年10月30日～11月8日

場 所:バグマティ県バクタプール郡スダール村

参加者:7名

内 容:バイオガスプラント設置ワーク、プロジェクト視察、交流

5. イオン労連第12回カンボジアワーキングキャンプ (カンボジア)

期 間:2009年11月24日～11月28日

場 所:タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区ソーチャン村

参加者:24名

内 容:井戸建設、交流

6. 第35回ネパール国際ワークキャンプ (ネパール)

期 間:2009年12月23日～2010年1月2日

場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村

参加者:4名

内 容:小学校図書及び教室建設支援(壁画、ペンキ塗り)、バイオガスほか農村開発プロジェクトの視察、子ども環境発表会参加、交流

7. 第11回パンダン国際交流キャンプ (フィリピン)

期 間:2009年12月26日～2010年1月1日

場 所:リサール州タリム島、パナイ島アンティーク州パンダン町

参加者:4名

内 容:水害被災者生活復興支援、植林活動、JAPAN BOX(文化紹介)、交流

8. 第7回NTT労働組合東海総支部

フィリピン・カタンドゥアネスワークキャンプ (フィリピン)

期 間:2010年1月9日～1月14日

場 所:カタンドゥアネス島サンアンドレス町リサール村

参加者:18名

内 容:井戸・パイプライン建設、プロジェクト視察、交流

9. 第3回(株)パスコ カンボジア・ワークキャンプ (カンボジア)

期 間:2010年2月25日～3月2日

場 所:タケオ州トレアン郡プレイスルック地区ネアル村

参加者:3名

内 容:井戸建設、プロジェクト視察、交流

10. 第4回フィリピン・パロンバネス島国際ワークキャンプ (フィリピン)

期 間:2010年3月4日～3月10日

場 所:カタンドゥアネス島カラムラン町トイトイ村パロンバネス島

参加者:5名

内 容:植林、交流

2. 海外プロジェクト視察

1. インド

期 間:2009年6月12日～7月31日

場 所:カルナータカ州ビジャプール地区

視察者:富松英二

内 容:過去建設井戸 38 基の調査、コスモニケタン学園の現状調査

2. パキスタン

期 間:2009年6月17日～6月25日

場 所:北西辺境州マルダン県、ペシャワール県、

視察者:村上公彦、横山浩平

内 容:地震による緊急支援事業実施のための調査

3. ネパール

期 間:2009年7月1日～7月9日

場 所:バグマティ県カブレ郡、カトマンズ郡、シンドゥバルチョーク郡

視察者:熱田典子

内 容:学校設備支援、井戸・バイオガス・病院プロジェクト視察、アジア里親の会支援校との打ち合わせ

4. フィリピン

期 間:2009年7月27日～7月30日

場 所:パナイ島アンティーク州パンダン町、マニラ市

視察者:村上公彦、松井聡子

内 容:水道プロジェクト視察、AFS ネットワークについての会議

I. 国際協力支援事業

5. ネパール

期 間:2009年8月7日～8月19日
場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡、バグマティ県バクタプール郡、バグマティ郡カトマンズ郡
視察者:熱田典子
内 容:植林及び環境保全のセミナー、井戸・バイオガスプロジェクト視察、アジア里親の会支援校との打ち合わせ

6. フィリピン

期 間:2009年10月3日～10月17日
場 所:リサール州アンゴノ町、ビナゴナン町、カルドナ町
視察者:松井聡子
内 容:水害被災者緊急支援

7. インド

期 間:2009年10月6日～10月11日
場 所:カルナータカ州ビジャプール地区
視察者:(株)クボタ 2名
内 容:井戸建設予定地の視察

8. インドネシア

期 間:2009年10月12日～11月4日
場 所:パダン・パリアマン県
視察者:永井博記、藤原建男
内 容:初動調査及び緊急支援事業調整(緊急支援関連)

9. ネパール

期 間:2009年10月30日～11月10日
場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡、バグマティ県バクタプール郡、バグマティ県カブレ郡
視察者:熱田典子
内 容:バイオガスプロジェクト視察、普及及び環境に関するセミナー、植林地視察

10. 中国

期 間:2009年11月1日～11月4日
場 所:甘粛省鎮原県
視察者:永井博記
内 容:植林事業調査

11. インドネシア

期 間:2009年11月26日～12月25日
場 所:パダン・パリアマン県
視察者:永井博記、藤原建男
内 容:緊急支援事業調整

12. ネパール

期 間:2008年12月23日～2009年1月7日
場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡、ナラヤニ県チトワン郡、バグマティ県バクタプール郡、バグマティ郡カトマンズ地区
視察者:熱田典子
内 容:バイオガスプロジェクト視察、普及及び環境に関するセミナー、アジア里親の会支援校と打ち合わせ、学校支援

13. バングラデシュ

期 間:2010年1月18日～1月24日
場 所:ムンシゴンジ県、ダッカ県
視察者:横山浩平、四国化成工業(株)1名
内 容:水質調査、プロジェクト視察

14. インド

期 間:2010年1月28日～2月6日
場 所:マハラシュトラ州、カルナータカ州
視察者:村上公彦、田中壽美子、ニック・イクバル
内 容:RUDYA 視察・運営調整、コスモニケタン職業訓練学校作業運営打ち合わせ・ISSA 視察

15. インド

期 間:2010年3月9日～3月17日
場 所:ナガランド州コヒマ地区
視察者:田中久雄、吉田暢子、大倉達也、横山浩平
ムツェゾ・テツェオ
内 容:パイプライン建設事業調査

16. ネパール

期 間:2010年3月15日～3月23日
場 所:ルンビニ県ノールパラシ郡、バグマティ県ダーディン郡、バグマティ県バクタプール郡、バグマティ県カブレ郡、バグマティ郡カトマンズ地区シタパイラ村
視察者:熱田典子
内 容:バイオガスプロジェクト視察、プロジェクト相談、アジア里親の会支援校との打ち合わせ

17. インドネシア

期 間:2010年2月5日～4月5日
場 所:パダン・パリアマン県
視察者:永井博記、藤原建男
内 容:緊急支援事業調整

18. フィリピン

期 間:2010年3月4日～3月12日
場 所:リサール州アンゴノ町、ビナゴナン町、カルドナ町
視察者:松井聡子
内 容:水害被災者復興支援

19. フィリピン

期 間:2010年3月10日～3月20日
場 所:リサール州アンゴノ町、ビナゴナン町、カルドナ町
視察者:村上公彦
内 容:水害被災者復興支援

20. フィリピン

期 間:2010年3月23日～4月1日
場 所:リサール州アンゴノ町、ビナゴナン町、カルドナ町
視察者:松井聡子
内 容:水害被災者復興支援

I. 国際協力支援事業



災害復興支援で完成した井戸の前に
(インドネシア・バリアマン県)



ワークキャンプで女性の農業センターを建設
(フィリピン・リサール州タリム島)



災害復興支援にてシェルター材料配布用のクーポン券を配布したところ
(フィリピン、タリム島にて)



アジア国際夏期学校で風力発電装置をつくる子どもたち
(インド・カルナータカ州ビジャプール地区)



ワークキャンプで描いた図書館の壁 (ネパール)



植林用の苗木を持った子どもたち
(フィリピン・カタンドゥアネス州パロンバナス島)

II. 国際交流事業

II-A. ネットワーク推進事業

1. アジア国際ネットワークセミナー

民衆の生活向上、特に、最貧困層の人々の基本的生存条件の確立に努力しているアジア各地のNGOとの連携・交流を図るために毎年一回開催されているアジア国際ネットワークセミナー。

本年度(第20回を迎える)大阪で10月9日～10月13日に開催する予定であったが、10月初めに大阪域内におけるH1N1インフルエンザの流行がピーク時に達する危険性が高いとの医療専門家のアドバイス、及び実行委員会(構成団体、大阪府国際交流財団、大阪国際交流センター及び本会)の意向(諸情勢判断)により、延期(無期)することとなった。本会としては次年度においても京阪神地域において実施したい希望をもっている。

2. 国際体験交流(スタディーツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト見学やアジアの現状を実際に足を運び実感することを通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。本年度は5ヶ国に5回実施し、述べ27名が参加した。

1. ラオス 学校建設完成式典スタディーツアー (ラオス)

期 間:2009年5月19日～5月24日

場 所:サヤブリー県、ルアンパバーン県

視察者:7名(京都洛中ロータリークラブ6名)

内 容:学校建設完成式典

2. ネパール スタディーツアー (ネパール)

期 間:2009年7月1日～7月9日

場 所:カトマンズ、カブレ、チョータラ、スクテ

参加者:2名

内 容:地域開発プロジェクトと農村との関係及び現地の実態のスタディー

3. 第14回アジア国際夏期学校 (インド)

期 間:2009年7月19日～8月2日

場 所:カルナータカ州ビジャプル地区

参加者:5名

内 容:ハイブリッド発電機建設

4. ベトナム スタディーツアー (ベトナム)

期 間:2009年10月30日～11月4日

場 所:ホーチミン、ベンチェ、フォンミー、クチ

参加者:8名

内 容:ベトナムの小学校建設プロジェクト応援と現地農村視察、文化体験、交流

5. 第1回ミャンマー・スタディーツアー (ミャンマー)

期 間:2010年2月10日～2月18日

場 所:ラカイン県ドーングップ町、マンダレー県、パガン市、ヤンゴン、サガイン県

参加者:5名

内 容:パイプライン/井戸建設地視察、交流

3. アジア青少年指導者育成(交流)プログラム

(1) アジアユースサミット

◆趣 旨 :アジア8カ国(インド、タイ、中国、日本、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ベトナム)の高校生が、日本で一堂に会し、「地球の未来に向かって～持続可能なコミュニティを目指して」をテーマに、自分たちの足元を見つめ直し、地球の未来に繋がる活動を展開するため、話しあい、行動指針を決める。話し合いを通じ、交流を深め、アジア8カ国の将来の友好関係を担い、アジア、世界に貢献できる人材を育成することを目的とする。

◆テーマ:基本テーマ:地球の未来に向かって

第1回テーマ:水と生活～持続可能なコミュニティを目指して～

◆開催期間:2009年11月20日～11月23日

◆開催地:大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)、カトリック野外礼拝センター(奈良県)

◆参加者総数:190名

・国内高校生参加者数 5校25名

大阪府立松原高等学校、関西学院高等部、神戸学院大学附属高等学校、同志社香里高等学校、兵庫県立国際高等学校

・海外高校生参加者数 7カ国20名

インド8名、タイ2名、中国1名、ネパール3名、バングラデシュ3名、フィリピン2名、ベトナム1名

・一般参加者、ボランティア他147名

◆主 催:アジア・ユースサミット実行委員会

◆後 援:外務省、在大阪・神戸インド総領事館、在大阪タイ王国総領事館、在大阪中華人民共和国総領事館、在大阪ネパール連邦民主共和国名誉総領事館、在神戸バングラデシュ人民共和国名誉総領事館、在大阪・神戸フィリピン共和国総領事館、在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館、大阪府、奈良県、大阪府教育委員会、奈良県教育委員会、大阪府教育委員会、財団法人大阪府国際交流財団、毎日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、産経新聞社、奈良新聞社、財団法人関西テレビ青少年育成事業団

◆協賛:財団法人 関西テレビ青少年育成事業団

◆協力:帝塚山学院大学人間科学部、株式会社ラボ教育センター関西総局、株式会社日本ビューシステム

II. 国際交流事業

◆事業日程及び内容

- 11月20日 オリエンテーション
- 11月21日 アジア・ユースサミット開会式
プレゼンテーションプログラム
アジア8カ国の高校生による「水と生活」をテーマにしたコミュニティマップの研究発表、質疑応答
- 11月22日 グループディスカッション
グループディスカッション中間報告発表
フィールド研修:佐保川「水辺の楽校」
カルチャーナイト
- 11月23日 グループディスカッション最終発表
アクションプランの作成、採択
アジア・ユースサミット閉会式、認定証の授与
- 11月24日 海外参加者広島視察
- 11月25日 海外参加者、参加高校訪問
フェアウェル・パーティー
- 11月26日 海外参加者帰国

◆アクションプラン(第1回アジア・ユースサミット宣言文)

参加者がそれぞれの国に帰り、アジア・ユースサミットのコミュニティを形成し、ユースサミットのウェブを通して、活動報告などを行うと同時に、具体的なアクションとして、子どもや大人へ幅広い年齢層を通して、川やため池の清掃に取り組み、それを通して、水に対する知識を広めていく

※財団法人大阪国際交流センターの助成を受け事業を実施。

4. その他

(1) アジアフレンドシップ夢基金

2007年11月に開催された第18回アジア国際ネットワークセミナー(17カ国48名参加)において「アジアネットワーク共通基金設立」(国際基金創設)の問題が提起、国際ネットワーク委員会の事務局(AFS/ICO)である本会では、本会活動30周年を機に、「Asian Friendship Fund(アジアフレンドシップ基金)」の名称で基金を創設する案(日本においては「アジアフレンドシップ夢基金」と呼称)を作成。

2009年8月から理事会・国際ネットワーク委員会を中心に基金創設支援準備(基金創設推進委員依頼等)にはいり、募金体制の整備を行った。基金創設に必要な人的ネットワーク作りを行う基金創設推進委員会(組織)と日常的な募金活動を行う基金支援会(募金)の両輪体制を採る方策が検討。

10月20日～10月23日に第1回アジアフレンドシップ基金創設準備委員会(議長、ナディーム・チョウドリー氏(AFSパキスタン会長)、6カ国参加、於:タイ・バンコク)を開催、共通基金はアジアの草の根の人々、特に困窮する人々や子どもたちに夢と希望を与えるような各種プロジェクトの実施に用いることに決定。2010年度はアジア全体で10万ドル(約1000万円)程度を目標とする。

基金国際管理委員会の正式発足は2010年10月を予定。

この基金創設は、これまで援助を受ける一方であった貧しいアジアの草の根の人々にとって、援助する立場に立つということであり、画期的な一歩として歴史的な出来事となる。

(2) AFS国際会議

本会が国際協力、海外支援事業を有効に実施・推進していくために、各提携団体相互の理解と協力と連帯が必要かつ有効であるとの認識から必要に応じて実施。

特に、環境問題や貧困問題等に共通する基本的ないしは根源的問題について、相互の研究会や技術的レベルの情報交換やスタッフの交流、活動や交流のための共通基金の創設等、各種連携は不可欠である。本年度は以下の会議を実施した。

- 4月18日 国際グリーン・スカウト指導者養成会議(タイ、ランパーン市)
- 7月15日 AFSインド地区協議会(ガッチロリ地区)
- ～7月22日 ビジャプール、ナグプール、アコラ、アマラバティ、ガッチロリ、アヘリ、カタック及びコルコタ各支部参加
- 8月13日 カンボジア支部との交流・協議会(プノンペン市)
- ～8月16日
- 10月20日 アジアフレンドシップ基金第1回協議会
- ～10月23日 (バンコク、ノンタブリ市)タイ、カンボジア、フィリピン、インド、パキスタン、及び日本

(3) 海外訪問者記録

- 4月3日 ネパール提携団体 GS ネパール
- ～6月30日 ビマラ・ナビット・マハラジャンさん来日
プロジェクト報告、助産婦研修
- 5月26日 バングラデシュ提携団体 BDP 代表
アルバート・マラカル氏来日
バングラデシュ事業報告
- 6月3日 インド提携団体 ドンボスコアシャラム
ボーラ氏来日、ストリートチルドレン事業報告
- 7月7日 バングラデシュ提携団体 AFS チッタゴン
イフテカ・チョードリー氏来日、表敬訪問
- 10月8日 シンガポール提携団体 AFS シンガポール代表
- ～10月10日 エドワード・オング氏夫妻来日
JAFS30周年記念式典に参加
- 11月9日 韓国ジョンサン国立大学
学生(22名)教授(1名)来日
日本の国際協力団体の活動を知るため
- 11月27日 アジア社会科学院(ASI)スタッフ
- ～12月19日 クリストファー・ヒュネス氏来日
有機農業研修、事業報告



AFS国際会議 (タイ)

II. 国際交流事業

II-B. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支援。()は所属、【 】は支給対象項目と研修場所

- ①ナジーム・ウディン・S・ムハマッド(バングラデシュ、大学院生)
【アジア社会科学院 研修コース留学、マニラ市】
- ②ビマラ・ナビット・マハラジャン(ネパール、助産婦・准看護師)
【日本研修、大阪府寝屋川市大谷助産院】
- ③ピン・ソフィア(カンボジア、公務員)
【フィリピン大学農学部博士課程、ロスパニオス市】
- ④ジャミラ・ウライム(中国・ウイグル、大学院生)
【兵庫県立大学博士課程、奨学金(一時金)、神戸市】
- ⑤クリストファー・ヒュネス(フィリピン、ASI スタッフ)
【日本研修、京都府綾部市】

2. 海外ボランティア研修

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成をおこなう制度として2000年度より実施。

2009年度は、応募者がなく、研修実施不可能となった。しかし、2008年度の研修生がその制度及び自らの経験したことの価値を多くの人々に広報するための講演活動を実施し、ボランティア研修制度の今後の発展に貢献した。



ビマラ・ナビット・マハラジャン 助産研修
(大阪府寝屋川市)



クリストファー・ヒュネス 有機農業研修
(京都府綾部市)



第一回アジア・ユースサミット グループディスカッション
(奈良県 高の原カトリック礼拝センター)



ミャンマー スタディーツアーにて
(ミャンマー・ラカイン県)

III. 普及啓発事業

III-A. 啓発教育

1. 本部活動

(1) チャリティープログラム

◆JAFS チャリティーバザール◆

毎年2回、恒例になっている春と秋のJAFSチャリティーバザールを本年度は集客を考えて一昨年まで利用していたJR住道駅前北側のデッキ広場で開催した。

大東市の市報を通じた広報で例年より出店者が増えた。また屋外イベントでもテント内をうまく使って活動紹介ブース(展示コーナー)を設けることで、来場者への活動理解を促す機会ができた。今後は、さらに多くの会員や地元の方が様々な形で関わり、参加できるバザールにしていこう。

<春のバザール>

日時:2009年4月29日(祝)10:00~16:00

出店数:27店 (47ブース)

<秋のバザール>

日時:2009年10月18日(日)10:00~16:00

出店数:36店 (48ブース)

◆泉大津フェニックス野外コンサート 飲食ブース出店◆

8月30日 RUSH BALL 09

9月5日 OTODAMA 09

会場:泉大津フェニックス

主催:泉大津フェニックス夏フェス09実行委員会事務局

◆JAFS The Party◆

年末の会員交流の場として毎年恒例のパーティー。今年はアジアユースサミットのメンバーが中心になり、企画実施した。アジアのバラエティ豊かな料理と共にクイズ大会、インドネシアのダンスなど、大勢の来客のもと、楽しいひとときとなった。

日時:2009年12月19日(土) 18:30~20:30

場所:Pia NPO(ピア・エヌピーオー)

参加者:57名

内容:アジア料理バイキング、クイズ大会、インドネシアダンス、ベリーダンス、クリスマスソング&キャンドルサービス、カクテル、似顔絵コーナー等

(2) 国際理解教育講座

2002年度4月よりスタートした「総合的な学習の時間—国際理解—」。NGOが教育の場に入り、学校と相互理解・協力をはかりながら未来の人材を育てていく。今年度もNGOの役割や国際協力、環境保全の大切さを子どもたちに教室で直接伝えるべく、

様々な国際理解教育活動を展開してきた。学校にとっては本会の国際理解教育講座が毎年の恒例化となりつつある。それぞれの市内に国際理解、関心が広がり、町ぐるみでの取り組みができることを期待する。

子どもたち個々の魅力が社会で生きること(社会参加=国際協力参加)へのきっかけづくりになることを目指す。

NGO 講師派遣 【のべ23校、1174名】

5月7日	松原第2中学校 (28名) 「アジアコース・命の水」
5月11日	松原第2中学校 (25名) 「ネパールを知ろう! 国の様子と子ども達の暮らし」
5月11日	松原市立東小学校 (95名) 「ネパールを知ろう! 国の様子と子ども達の暮らし」
5月28日	松原市立三宅小学校 (68名) 「カンボジアの村に井戸が出来た」
5月28日	大精協看護学校講師派遣(40名) ロシア:アレキサンダー氏
6月18日	大精協看護学校講師派遣(40名) ネパール:ビマラさん
7月10日	大阪市立平野小学校 (80名) 「アジアの子ども達の生活と水」
8月6日	生き生き地球館「夏休みの小中学生! 環境と社会とつながる3日間」(25名) 「アジアの子ども達の生活と水」
10月6日	堺市立深井西小学校講師 (63名) 「アジアの子ども達の生活と水」
10月16日	大阪経済大学くらしと環境コース講義(25名) 「JAFSの活動より見る国際支援とボランティア」
10月30日	吹田市立佐竹台小学校総合学習(72名) 「ネパールから学ぶアジアの子ども達の生活と水」
11月5日	大阪府立富田林高等学校 (39名) 「アジアの子ども達の生活と水」
11月10日	大阪府立泉北高校 (80名) 「世界の水問題」
11月17日	堺市立竹城台小学校 (55名) 「アジアの生活と水」
11月20日	堺市立津久野中学校 (20名) 「キャリア学習講座」
11月26日	大東市立灰塚小学校 (140名) 「アジアの子ども達の生活」
12月1日	立命館大学理工学部連携講座 特殊講義II (120名) 「アジアの現状と我々の役割」
12月10日	大阪府立大手前高等学校(21名)集中セミナー 「NGOという仕事とアジアの現状」

III. 普及啓発事業

12月18日 天王寺高校 天王寺 FAN ぞうすいの会(15)
「ワークキャンプって！なに？」

2010年

1月21日 堺市立大泉小学校 (38名)
「キャリア学習講座」

2月4日 堺市立深井西小学校
「生命の水、世界の国について知ろう」

2月16日 堺市立大仙西小学校 (70名)
「生命の水、世界の国について知ろう」

3月9日 天王寺高校 天王寺 FAN ぞうすいの会(15)
「アジアの食文化」

授業受け入れ 【のべ6校114名】

6月1日 大阪キリスト教短期大学(25名)
「渇くアジアと世界に水を」

6月3日 きのくに子ども村学園中学 (7名)
「世界の子どもの暮らしと環境」

6月5日 大阪キリスト教短期大学(25名)
「渇くアジアと世界に水を」

6月12日 甲南女子大学(30名)
「ストリートチルドレンについて」

6月26日 大阪府立松原高校 (7名)
「生命の水とアジアのこどもたち」

11月19日 城星学園 (20名)
「アジアの子どもの生活と水」

セミナー他 【1回30名】

8月1日 国際理解教育指導者セミナー(教職員自主研修支援)
(30名)
内容:ワークショップ「環境について」
於:JICA 大阪センター

YMCA 国際専門学校高等課程 講師委託事業

4月～8月 グローバルスタディーズ 非常勤講師として
(毎水曜日) (合計12回/2時間)

(3)インド文化センター講座

インド文化センターはインドの文化、思想の紹介を図り、日印間の相互理解と文化交流を促進し、インド文化愛好者相互の親睦を目的として1987年設立され、137回の例会が行われたが、2003年に閉会した。2005年本会の国際理解・文化事業の一環としてJAFSインド文化センターが新しく発足。インドの歴史、宗教思想、文化の多様性と奥行きを日本の方に楽しく親しく広く学べる場として、宗教、思想や芸術にくわえ、古代の占い、暦、天文学、数学、医学を取り上げている。

2009年度は第6期の連続講座『インドの地方文化と出会う！』を企画。JAFS事務所で実施し、のべ81名の参加となった。
第1回4月11日「オリッサの文化と生活～オリッサの人気料理『ダルマ』付～」参加者12名

講師:大谷大学講師 シャバ ラニ ダシュ氏

第2回5月9日 「オリッサの貝葉写本文化」参加者17名
講師:大谷大学講師 シャバ ラニ・ダシュ氏

第3回6月13日 「カシミールの民話～慶事のデザート『フィリニ』付～」参加者15名

講師:金沢学院大学講師 塩谷マクスダ氏

第4回7月13日 「インドの布と生活～サリーを通して～」
参加者12名

講師:金沢学院大学講師 塩谷 マクスダ氏

第5回8月8日 「南国の楽園 ケーララ」参加者12名
講師:新居建築研究所建築家 ヴァサンティメ
ン ニイ氏

第6回9月12日 「自然との共生社会」参加者13名
講師:新居建築研究所建築家 ヴァサンティメ
ン ニイ氏

(4)アジア文化理解講座

国際協力を一般の人が身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

◆アジア家庭料理教室◆

2009年度はアジア12地域23回のアジア家庭料理教室を行い、延べ433名の参加を得た。
会場:クレオ大阪西 調理室

4月16日、23日 フィリピン 参加者43名
講師:ビーナ ジードル氏

5月14日 沖縄 参加者22名
講師:運天 優子氏

6月11日、18日 ネパール 参加者45名
講師:ビマラ ナビット マハラジャン氏

7月9日、23日 イラン 参加者36名
講師:ナスタラン スミ氏

8月1日 中国新疆ウイグル自治区 参加者20名
講師:ジャミラ ウライム氏

9月10日、17日 ベトナム 参加者39名
講師:レ ファイ ヴァン氏

10月15日、22日 タイ 参加者47名
講師:水野 ブンルアン氏

11月12日、19日 インドネシア 参加者38名
講師:シャフウイナ氏

12月10日、17日 パキスタン 参加者32名
講師:ナゼマ トラバリー氏

1月21日、28日 中国 上海 参加者33名
講師:沈 慧敏氏

2月18日、25日 韓国 参加者42名
講師:孫 君子氏

3月18日、25日 インド 参加者36名
講師:アニー ハッサントラバリー氏

<その他の活動>

III. 普及啓発事業

12月19日

JAFS The Party 料理ボランティア

於:堺市役所 本館ロビー

参加者:30名

(5) 会員大会

JAFS 設立 30 周年を機に始められた JAFS 会員大会。今年度は第 2 回を開催。第 1 部では 2009 年に様々な分野で顕著な活動をした個人・グループへの感謝状贈呈、第 2 部ではアトラクションを楽しみながら懇親会を行った。年 1 回の会員大集合の場として、参加者同士が交流し、お互いの活動を知ることができた。

2月20日 第2回 JAFS 会員大会

於:パークホテル臨海

参加者:81名

(6) 国際協力ボランティア講座

◆JAFS 例会◆

海外プロジェクトを中心とした最新の JAFS 活動を会員および市民に紹介する機会を設け、会員拡大につなげるという目的で 2008 年 10 月より開始、シリーズ企画として実施している。特に学生・社会人の参加をねらい、時間や雰囲気を設定、学校・会社帰りに気軽に参加できるように企画。

2009 年度のテーマは『国際ボランティア活動の現場から』。

4月4日 日比友好水道プロジェクト in フィリピン・バンダン

報告者:村上公彦

参加者:8名

5月12日 ストリートチルドレンは今、どう生きてるの？

In フィリピン

報告者:松井聡子

参加者:25名

6月9日 ネパール 山間地の出産とそのリスク対策

報告者:熱田典子、ビマラ・ナピット・マハラジャン

参加者:13名

7月14日 みんなで広げよう！ 地球環境保全活動

グリーンスカウトについて

報告者:村上公彦

参加者:4名

9月8日 カンボジアにおける地域開発事業

報告者:横山浩平

急な出張のため中止

◆ボランティアガイダンス◆

国際協力や NGO、ボランティア活動に関心のある方を対象に、JAFS 活動を広く知らせる機会として開催。ワークキャンプ報告や各ファミリーグループ活動紹介をしている。参加者が事務局ボランティアや新たなグループのメンバーとして JAFS に関わるきっかけ作りになっている。

5月9日 JAFS 春のボランティアガイダンス

於:山下ビル 10 階

参加者:40名

9月22日 JAFS 秋のボランティアガイダンス

(7) その他各種教養講座・研修プログラム

◆ワン・ワールドフェスティバル 2009◆

1993 年より毎年大阪で開催、今年 17 回目を迎えた。関西の NGO、NPO、国際機関、企業などが参加し、国際協力活動を幅広く紹介するとともに、参加者が地球規模の課題に対して行動するきっかけの場となることを目的としている。本会は実行委員会の一員として、活動紹介展示、民族料理屋台、企画プログラムにて参加協力した。

期 間:2010 年 2 月 6 日(土)、7 日(日)

場 所:大阪国際交流センター

来場者:12,300 名(2 日間延べ人数)

主 催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

内 容:

①NGO 活動紹介ブース

来場者を対象に活動紹介とアジアグッズの販売を行った。

②民族料理模擬店出店

JAFS ファミリーグループ(スリランカ・サルボダヤ支援会、Paon)が協力し、アジアの料理(タイ風雑炊、ジンジャーチャイ)を販売した。収益をアジアへの支援金にあてるとともに、食を通してアジアの理解を深めた。

③企画プログラム 2月7日(日)

「海外支援プロジェクト公開オークション その夢買います」

目的: アジアの農村の自立をめざした夢のある海外支援プロジェクトを紹介。各プロジェクトに一般市民や企業がどのような協力ができるのかを考え、具体的な参加の道を探るのを目的としたプログラム。

内容:海外支援プロジェクト 3 つを紹介

・インドの秘境ナガランドに暮らす人々に届けよう水を！

・フィリピンの小島を緑豊かな土地に！

・バングラデシュの子どもたちの命を守るための教材を

つくろう！～健やかな成長を願って

活動紹介を受けて、参加者は各プロジェクトごとに具体的にどのような参加協力の道があるのかを話し合い、最後に、それぞれ参加者自身の参加方法を発表した。

参加者:21 名

2. 地区活動

30 周年事業として地域活動の活性化を図る事を目的にそれぞれ目的を定め「ぞうすいの会実行委員会」「植林実行委員会」「ウォーカソン実行委員会」体制で開催した。

本会の活動、理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し、多岐にわたり地域活動が行われてきた。中には活動 15 周年を迎える活動もあり、益々の広がりを見せている。

第 1 エリア:大阪府北部、兵庫県東部

第 2 エリア:大阪府東部

III. 普及啓発事業

- 第 3 エリア：大阪市内
- 第 4 エリア：大阪府東南部
- 第 5 エリア：京都府、滋賀県
- 第 6 エリア：武庫川以西の兵庫県
- 第 7 エリア：奈良県、東大阪、八尾
- 第 8 エリア：大阪府西南部
- 第 9 エリア：和歌山県、西日本
- 第 10 エリア：東日本

(1) エリア世話人会・全体地区世話人会

◆エリア世話人会◆ 計 11 回実施 16 名
定例会：毎月第 3 火曜日(11 月を除く)
各地区世話人の内より、エリア毎に委任されたエリア世話人(各エリア 3 名程度)で構成、エリア内の各地区世話人との情報交流、連絡調整を計り、事務局と地区のパイプ役をつとめる。また、地域活動における事務局事務(主として連絡、広報)を補佐を行なう。

◆全体地区世話人会◆ 1 回
日程：11 月 13 日～11 月 14 日
場所：パークホテル臨海
テーマ：JAFS30 周年記念事業の報告と地区活動の次への取り組みについて～心も活動もリフレッシュ～
実行委員：第 4、6、7、8 エリア地区世話人

(2) 地区世話人一覧

※印 エリア世話人を兼任		
エリア	地区	氏名
第 1 エリア	尼崎	天野澄子※、黒谷侑子、富松英二
	池田	石原基義
	茨木	船本幸二
	川西	粕谷 早苗
	吹田	橋本喜代子
	高槻	島貫清司、西川龍夫
	豊中	川良幸子、富田修、豊田祥二
	箕面	平瀬勢丈
第 2 エリア	門真	友松千草
	四條畷	小浜喜代子、小柳二郎
	大東	東村小夜子
	寝屋川	笠谷正博※、根津千枝子、畠山ひろみ、船曳正之、松山博子
	枚方	明見睦子、天野由紀代※、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子
第 3 エリア	守口	大野賢信、真田朱美、二野英子
	大阪市	有馬純夫、齋藤かおる、塩尻昭枝、寺岡源司※、中島三栄子、福岡好嗣、福本絹代

第 4 エリア	河内長野	今井利子※、白井春夫
	富田林	東野ゆかり
	藤井寺	森わか子
	松原	橋本末子※、六車勝三
	美原	田中千鶴子※、中嶋啓子
第 5 エリア	宇治	柿木良昭※、杉林則子、田中紀代三※
	亀岡	亀谷真佐美
	京都市	菅 洋子、宮本照佳※
	綴喜郡	松本健治
	野洲郡	深田陽一
第 6 エリア	八幡	黒木隼彦、福川 肅
	芦屋	井上登志子、白神博子※
	神戸	福井初美
	三田	堀 正之
	西宮	大木洋子、岡田 昂※、木崎義純、斎藤美美子、畠中美代子、平山隆史
第 7 エリア	姫路	荒川鉄也、中尾和子、松本茂宏、森 梢
	生駒	青木美千代、落合能里子、奈蔵千代、山田いづみ※
	奈良	高以良泰治、野口明英
	東大阪	岡田 一、坂上やよひ※、南野紀美子
	大和郡山	古田由紀
第 8 エリア	和泉	出原とよ、内野清子、中居順三
	泉大津	草加節男
	堺	幾谷真嬉子、久保幸子、小出裕司※
第 9 エリア	新宮	奥田 勲、瀧野秀二、瀧野三重子、中西 洋
	田辺	小森茂之
	広島	宇田和博
	和歌山	長江佐和
第 10 エリア	静岡	富坂保雄
	多摩	広住道夫
	東京	市来伴子、高岸泰子
	名古屋	清水三千夫、壁谷桂子
	沼津	佐野令二

(2010 年 3 月 31 日現在/計 101 名)

(3) 第 1 エリア

- 【第 1 エリア】
- 4 月 16 日 第 1 エリア地区世話人会
於:JAFS
 - 5 月 5 日 中山寺子どもフェスティバル参加
アジア子ども絵画展示、綿菓子等販売
於:大本山 中山寺
 - 2 月 17 日 第 1 エリア地区世話人会
(第 1 エリア協力プログラム確認他)
於:JAFS
 - 3 月 30 日 第 1 エリア地区世話人会
(中山寺プログラム打ち合わせ)

Ⅲ. 普及啓発事業

【尼崎】(天野澄子、黒谷侑子、富松英二)

- 4月4日 ぞうすいの会
於:妙光寺(立花) 参加者:27名
- 5月30日 料理教室 フィリピン編
於:サンビック尼崎 参加者:8名
- 7月4日 ぞうすいの会
於:猫町西村(立花) 参加者:29名
- 3月13日 ウォーカソン
於:中国街道 参加者:15名

【高槻】(西川龍夫、島貫清司)

- 6月28日 ぞうすいの会 カンボジア編
於:霊松寺 参加者 51名
カンボジアへ、高槻より第1号の井戸
1基寄贈
- 11月23日 北摂歴史ウォーカソン
於:茨木市阿為神社、高槻市古墳群、はにわ工房
などを巡る 参加者:19名

【豊中】(川良幸子、松原直弘)

- 6月10日 国領さん送別会
- 4名の地区世話人の減少があったため、他に特に活動は行われなかった。

(4)第2エリア

【第2エリア合同】

第2エリアでは、エリア間の関係を密にする目的と、会員増強をエリア全体で考えていくために、エリア合同で実施するプログラムを定期的に実施。

今年度は、30周年に向けて世話人がぞうすいの会、ウォーカソン、植林の担当につき、実行にした。特に植林では、第2エリアので植林活動実施に向けて、実行委員会を立ち上げ実施に向けて活動を進めている。また、意思統一の為に話し合いや新年会などをおこない、雰囲気向上を図った。

- 5月2日 ウォーカソン実行委員会下見
- 6月26日 植林準備委員会現地視察
- 6月29日 ウォーカソン実行委員会最終打ち合わせ(七夕)
- 7月15日 ウォーカソン下見
- 7月25日 植林準備委員会下草刈
- 8月11日 植林準備委員会草刈と測量
- 8月28日 ウォーカソン実行委員会最終打ち合わせ(淀川)
- 9月11日 植林準備委員会測量
- 10月21日 植林準備委員会地元自治会と懇談
- 12月21日 植林実行委員会会議
- 1月9日 植林実行委員会会議
- 1月16日 植林実行委員会会議
- 1月23日 第2エリア理事・世話人新年会
於:がんど寝屋川店
- 1月25日 植林実行委員会植林穴掘り
- 1月31日 植林実行委員会現地視察
- 2月22日 植林実行委員会会議

3月12日 第2エリア地区世話人会

<植林実行委員会“JAFS 北河内 緑とふれあう会”>

7月25日に交野市の植林予定地の下草刈りの実施、測定、などを行い、12月21日実行委員会発足(第1回実行委員会)、第2回実行委員会を1月16日に実施。

植林実施の確定はできず、2010年度に活動が持ち越されることとなった。

【守口】(大野賢信、真田朱美、二野英子)

- 4月1日 守口支部例会
於:国際交流センター
- 4月4日 桜まつり 出店
於:守口市下島公園
- 4月19日 フリーマーケット出店
於:橋波商店街
- 4月29日 JAFS 本部バザー出店
於:住道駅北側 デッキ広場
- 5月7日 ネパールより来客、接待
- 5月10日 ダンジリ祭り
於:守口市下島公園
- 5月13日 守口支部例会
於:国際交流センター
- 5月31日 ガレージセール
於:事務所前
- 6月3日 守口支部例会
於:国際交流センター
- 6月14日 フリーマーケット出店
於:橋波商店街
- 6月28日 焼肉パーティー
於:守口市下島公園
- 7月1日 守口支部例会
於:国際交流センター
- 7月5日 守口商業連盟 七夕まつり 出店
- 7月22日 高瀬神社夏祭り ダンジリ接待
於:事務所前
- 7月25日 橋波夜店 出店
於:橋波商店街
- 8月5日 守口支部例会
於:国際交流センター
- 9月2日 守口支部例会
於:国際交流センター
- 9月13日 守口支部15周年記念式典
於:守口市中央公民館ホール
- 10月7日 守口支部例会
於:国際交流センター
- 10月18日 JAFS 本部バザー出店
於:住道駅北側 デッキ広場
- 10月22日 高瀬神社夏祭り ダンジリ接待
於:事務所前
- 11月1日 守口市民祭り
於:守口市駅前
- 11月4日 守口支部例会

Ⅲ. 普及啓発事業

於:国際交流センター
11月15日 国際交流フェスティバル出店
於:守口市駅前 カナディアンスクエア
11月23日 秋季守口支部親睦会
於:京都府
12月2日 守口支部例会
於:国際交流センター
12月19日 ガレージセール
於:事務所前
1月6日 守口支部例会
於:国際交流センター
1月9日 戎さんお参り(有志)
於:大宮神社
1月11日 餅つき大会
於:事務所前
1月17日 フリーマーケット出店
於:橋波商店街
2月3日 節分豆まき 参加
於:高瀬神社
2月10日 守口支部例会&新年会
於:守口市駅前
2月20日 2009年全体地区世話人会参加
於:パークホテル臨海
3月3日 守口支部例会
於:国際交流センター
3月21日 フリーマーケット出店
於:橋波商店街

【四條畷】(小柳二郎 小浜喜代子)

4月24日 四條畷ぞうすいの会 四條畷総合センター
ネパール ナニマヤさんの話し 17名参加
12月28日 四條畷楠公会 枚方 穂谷にて 7名参加

【枚方】(吉田幸子、天野由紀代、船戸康夫、虫明慧悟、明見睦子、佐々木実)

4月30日 アジアこども絵画展 於:津田生涯学習市民センター
～5月13日
5月30日 第20回ぞうすいの会「ネパール山間地の生活と出産」
話:ビマラ ナピット マハラジャンさん
於:津田生涯学習市民センター
7月7日 天の川七夕伝説ロマンウォーク
於:京阪香里園駅→逢合橋→織物神社(交野市)
9月14 アジアこども絵画展
～9月27日 於:津田生涯学習市民センター
9月23日 淀川駅伝ウォーク(第2エリア企画)
於:京阪枚方市駅→淀川資料館→府立水生生物センター→地下鉄大日駅
9月27日 第21回ぞうすいの会
「フィリピン・日本のかけ橋 いのちの水の物語」
話:岩田 芳晴さん
於:津田生涯学習市民センター
10月4日 ひらかた NPO フェスタ 2009 参加
於:岡東中央公園

11月21日 ひらかた多文化フェスティバル 2009 参加
於:岡東中央公園
2月7日 第22回ぞうすいの会「私とボランティア活動」
話:高塚 真実さん
於:津田生涯学習市民センター
2月12 枚方国際交流こども絵画展 参加
～2月24日 於:くずはアートギャラリー
※エリア世話人会 4/22、5/30、9/3、12/10、1/9、3/16に参加。

今年度は、「ミャンマーへの井戸寄贈」の目標を達成することが出来た。

【寝屋川】(笠谷正博、島山ひろみ、船曳正之、根津千枝子、松山博子)

5月28日 地区世話人会
於:市民活動センター
6月14日 第36回ねやがわぞうすいの会
於:秦公民館
「ビマラの夢」ネパール山間地の助産師日記
話:ビマラ・ナピットさん
7月7日 七夕伝説ウォーク
於:枚方～交野
第2エリアで取り組む
7月21日 地区世話人会
於:市民活動センター
7月22日 市民活動センター講座参加
於:市民活動センター
「フィリピン・ストリートチルドレンの現状」
話:松井聡子さん
9月4日 地区世話人会
於:市民活動センター
9月12日 第37回ねやがわぞうすいの会
於:にぎわい創造館
「タイ王国の文化・その魅力」
話:三坂パニダーさん
9月23日 淀川駅伝ウォーク
於:枚方～守口
※第2エリアで取り組む
10月13日 地区世話人会
於:市民活動センター
11月7日 ふれあいフェスタ パネル展示参加
12月17日 地区世話人会
於:市民活動センター
1月23日 第2エリア理事・世話人新年会
於:がんこ寝屋川店
2月25日 地区世話人会
於:市民活動センター
3月14日 第2回みんなおいでよ ねやがわ多文化フェスタ
実行委員・模擬店・パネル展示等参加
於:寝屋川市民会館
3月25日 地区世話人会
於:市民活動センター
3月30日 アジアこども絵画展
～4月5日 於:香里ふれあいプラザ

Ⅲ．普及啓発事業

今年度は、以上の活動によりネパールにバイオガス プラント 2 基を寄贈することが出来た。

(5)第3エリア

【大阪市】(有馬純夫、斉藤かおる、塩尻昭枝、寺岡源司、中島三栄子、平原榮子、福岡好嗣、福本絹代)

- 4月4日 第6回大阪水辺ウォーク
「大阪ミステリーツアー」
- 7月4日 大阪ぞうすいの会
場所: 上行寺(港区)
「アジアの水事情」
お話し: 横山浩平
- 9月27日 第7回大阪水辺ウォーク
「渡船めぐり」
- 10月24日 淡路島沼島ぞうすいの会&ウォーク
10月25日 うずしおフェスティバル 2009 参加(南あわじ市)
アジア子ども絵画展とバザー物品販売
- 11月23日 北摂歴史ウォーク(高槻市)
2月20日 「一夜官女」祭りウォーク(西淀川区)
3月26日 「一夜官女」祭りウォークでお世話になった地元の方4名をハルハロランチにご招待

<定例会>

毎月第3木曜日にアジア協会事務局にて定例会を開催(合計12回)。本年は30周年の年とあって、各事業は活況を呈し、質量ともにこれまでにない様相を示している。同時に多くの価値ある体験をすることができた。

新しく活動に協力いただいた参加者を大切にしながら、さらに活動の輪を広げてゆきたいと考えている。また、今後の例会運営は、これまで同様に地区活動の企画などの議案検討を続けながら、地区以外の方や新しい方も参加しやすい形にした実施を予定。

(6)第4エリア

【河内長野】(今井利子)

市立市民公益活動支援センターの協力団体として、“ボランティアフェスティバル”では、アジア子ども絵画の展示、アジア各国の事情をPR、グッズの販売を行い、売り上げの協力が得られた。また、今年は昨年に続き、ぞうすいの会を開催、ベトナムの話を留学生を交えて行った。河内長野駅前のクリーンアップ作戦は、さらに地元の方に呼びかけて定期的な活動として実践を続けた。

- 4月28日 クリーンアップ作戦
於: 河内長野駅前
- 6月23日 クリーンアップ作戦
於: 河内長野駅前
- 8月25日 クリーンアップ作戦
於: 河内長野駅前
- 10月17日 ぞうすいの会「日本とベトナムの交流」
話: 前田泰昭氏とベトナムの留学生
- 10月20日 クリーンアップ作戦

- 於: 河内長野駅前
- 11月28日 天野川ウォーク(そばどうすい付き)
於: 大阪狭山市駅〜三都神社〜金剛寺
- 12月8日 クリーンアップ作戦
於: 河内長野駅前
- 2月21日 河内長野市ボランティアフェスティバル参加
アジアグッズの販売、JAFS 活動パネル展示
於: 市民公益活動支援センター
- 2月23日 クリーンアップ作戦
於: 河内長野駅前
- 3月14日 河内長野ティーサロン
「少数民族ラカインの村の夢」
話: トエエモンラカイン氏

【松原】(橋本末子、森わか子)

- 4月19日 松原ボランティア連絡会総会出席
於: 松原総合福祉会館
- 5月13日 松原ワールドフェスタ実行委員会
- 6月7日 第47回JAFS 松原ぞうすいの会
ゲスト: ビマラ ナビット マハラジャンさん(ネパール)
於: 松原総合福祉会館
- 7月12日 松原ワールドフェスタ交流会(市役所福祉棟)
- 7月26日 第48回JAFS 松原ぞうすいの会
ゲスト: 岩田芳晴氏(JAFS 会員関東地区)
於: 松原総合福祉会館
- 8月22日 アジアちびっこ絵画展&JAFS パネル展示準備
於: 松原市役所
- 8月24日 アジアちびっこ絵画展&JAFS パネル展示
〜8月28日 (月〜金会場当番) 於: 松原市役所
- 9月26日 第49回 JAFS 松原ぞうすいの会
ゲスト: 坂田繁数氏(荷車の会)
於: 松原総合福祉会館
- 10月17日 松原ボランティア連絡会会議
- 10月25日 松原ワールドフェスタ実行委員会
- 11月1日 JAFS 松原地区会議
於: 松原総合福祉会館
- 11月8日 第4回松原ワールドフェスタに参加
- 11月14日 松原市立第三中学校
ヒューマンタウンフェスタに参加
於: 松原市立第三中学校
- 1月16日 松原ボランティア連絡会会議に出席
- 1月30日 第50回JAFS 松原ぞうすいの会
ゲスト: 村上公彦氏(JAFS 事務局長)
於: 松原総合福祉会館
- 2月20日 第1回 JAFS 会員大会出席
JAFS 松原ブログ大賞受賞(田中愛子)
於: パークホテル臨海
- 3月13日 第51回 JAFS 松原ぞうすいの会
ゲスト: トエエモンラカイン氏(バングラデシュ)
於: 松原総合福祉会館

<国際理解教育授業>

- 5月7日 松原市立松原第二中学校

III. 普及啓発事業

- 5月11日 松原市立東小学校 6年生(ビマラ ナピット マハラジャンさん、熱田典子さん)
松原市立松原第二中学校 1年生(ビマラ ナピット マハラジャンさん、熱田典子さん)
- 5月28日 松原市立三宅小学校 5年生
- 6月16日 松原市立布忍小学校 5年生
- 10月28日 松原市立恵我小学校 4年生
- 10月29日 松原市立恵我南小学校 4年生
- 11月10日 松原市立松原第三中学校 1年生
- 11月19日 堺市立黒山小学校 6年生
- 11月24日 松原市立中央小学校 4年生
- 2月9日 松原市立天美北小学校 4年生
- 2月22日 松原市立松原中学校 1年生
- 2月23日 松原市立松原中学校 1年生

【美原】(中嶋啓子、田中千鶴子)

- 5月16日 JAFS 社員総会出席
- 9月22日 地区懇親会および新入会員募集の説明会
- 11月21日 美原区民まつり準備
- 11月22日 美原区民まつり(旧美原おもろいデー)参加
JAFS 模擬店出店(収益を年末募金に)
- 11月28日 美原区民まつり反省会および懇親会
- 12月25日 地区懇親会および忘年会
- 1月17日 地区懇親会および新年会

【富田林】(沖田文明)

富田林地区会「ラリグラス」では、今年度も各地のバザー出店を中心に、アルミ缶の収集販売などを継続して行い、その収益金でネパールへ小学校建設の支援を行っている。これまでに3校建設し、現在4校目をめざして活動している。

7月にはチャリティーテニス大会を開催し、会員の交流をはかった。今年度からの新たな試みとして、堺市にある山之口商店街のギャラリー夢庵にて毎月第4日曜日に手作り品販売をしている。

- 4月29日 JAFS チャリティーバザール(JR住道駅前)出店
- 5月5日 堺・さつき祭り(山之口商店街)出店
- 6月1日 津々山台公園「地域の輪祭り」参加と、バザー出店
- 7月27日 富田林地区主催JAFS チャリティーテニス大会
- 10月18日 JAFS チャリティーバザール(JR住道駅前)出店
- 10月19日 堺まつり(山之口商店街)出店
- 1月24日 山之口商店街ギャラリー夢庵にて手作り品販売
- 2月28日 山之口商店街ギャラリー夢庵にて手作り品販売
- 3月28日 山之口商店街ギャラリー夢庵にて手作り品販売

【(7)第5エリア

【京都・宇治・野洲】(菅洋子、宮本照佳、柿木良昭、杉林則子、田中紀代三、松本健治、亀谷真佐美、黒木準彦、福川肅、深田陽一)

- 4月12日 宇治どうすいの会
於:松本会員宅(宇治田原)
- 5月9日 宇治地区例会(ウォーカソン準備会)
於:宇治市生涯学習センター

- 6月27日 宇治地区例会(ウォーカソン準備会)
於:宇治市生涯学習センター
- 9月6日 宇治地区例会(ウォーカソン準備会)
於:宇治市生涯学習センター
- 9月20日 淀川駅伝ウォーカソン① 観月橋⇒楠葉
於:宇治市、枚方市
- 10月4日 綾部どうすいの会
於:塩尻会員宅
- 10月11日 宇治地区例会(アジアお茶まつり準備会)
於:宇治市生涯学習センター
- 10月24日 宇治地区例会(アジアお茶まつり準備会)
於:宇治市生涯学習センター
- 11月7日 第15回アジアお茶まつり
於:ユニチカユニオン宇治川会館
参加者:100名
- 11月8日 中丹産業まつり出店
於:綾部
- 12月20日 お茶まつり反省会と忘年会
於:宇治市内
- 12月23日 美山どうすいの会
於:美山楽舎

その他、宇治市ボランティア活動センターに所属し、活動に参加協力している。

【(8)第6エリア

【西宮】(岡田昂、大木洋子、木崎義純、斉藤美美子、畠中美代子、平山隆史)

- 4月11日 どうすいの会 ~ネパール編~(35名)
ゲストスピーカー:ニルマラさん
ネパール風味どうすい
於:西宮市立中央公民館
- 4月29日 活動パネル展示とバザー出店
於:西宮中央教会 ふれあいマーケット
- 8月29日 スタッフ打ち合わせ会(9月12日どうすいの会準備)
於:西宮男女共同参画センター
- 9月12日 どうすいの会~ネパール編~(34名)
講師:ハリ シュレスタさん
於:西宮市立中央公民館
- 12月12日 西宮友の会の子どもクリスマスの会
「アジアの水の話」
- 1月10日 どうすいの会準備他諸行事予定検討
於:西宮市立中央公民館
- 1月23日 どうすいの会内モンゴル編(45名)
修淑梅さん他モンゴルの留学生5名を迎え
正月風景を中心に生活習慣を学ぶ
留学生手作りのモンゴルうどんを賞味
- 1月23日 「じゃふしあん」24号発行
- 2月14日 西宮国際交流デーに参加
活動パネル展示、アジア民芸品販売
於:西宮市国際交流協会

【神戸・芦屋】(井上登志子、白神博子、戸田恭子、福井初美)

Ⅲ．普及啓発事業

4月10日 ロシア人ゲストを迎えての食事会
ゲスト:アレキサンダー氏
於:「バラライカ」ロシアレストラン(中央区)

6月12日 村上事務局長講演会
於:岡本好文園小ホール(東灘区)

9月27日 「芦屋フリーマーケット」出店
於:JR 芦屋駅前

10月18日 「神戸グローバル・チャリティまつり」物販で参加
於:磯上公園(中央区)

11月7日 ぞうすいの会
ゲスト:和田幹二氏
於:神戸学生青年センター(灘区)

1月9日 地区新年会&長田街歩き
於:「用守」韓国料理店

3月14日 「神戸国際交流フェア」物販で参加
於:神戸ハーバーランド、シアター(中央区)

6月に井戸を1基寄贈(ネパール)

【姫路】(森 梢、荒川鉄也、中尾和子、松本茂宏)

定例会:毎月第1木曜日 19:00～
場所:イーグレ姫路 ボランティア活動室

5月10日 「子どもの心を考える学習会」(講演会)
於:姫路教会

8月22日 「ぞうすいの会」ネパール編
於:イーグレ姫路 料理教室

9月19日 姫路ウォーカーソン(銀の馬車道パートⅢ)
於:姫路市内 18名

2月28日 姫路スプリングフェスティバル参加
於:イーグレ姫路

* 「子どもの心を考える学習会」はJAFS会員の通う姫路教会で隔月、講師を招いて行う勉強会。

* ウォーカーソン「銀の馬車道」パーⅢでは民俗学の父「柳田國男」生誕の地の町並みと文化にふれた。

(9)第7エリア

【奈良・生駒・大和郡山】(青木美千代、一瀬由紀子、岩切康宏、落合能里子、金剛一智、高以良泰治、奈蔵千代、野口明英、福島朋子、古田由紀、矢野恵美子、山田いづみ、山田穂積、和田達生、渡邊瑠璃子)

4月5日 奈良地区4月例会&教養講座(野点)&花見
於:野口会員宅

5月22日 奈良地区5月例会
豚インフルエンザ拡大防止のため中止
於:奈良市中部公民館

6月20日 奈良地区6月例会
於:奈良市中部公民館

7月17日 奈良地区7月例会
於:奈良市中部公民館

8月8日 「奈良ぞうすいの会」
於:アトリエ並川

「なら燈花会ウォーカーソン」
第1部「なら燈花会について」
講師:奈良新聞社 和田達生氏
於:アトリエ並川

第2部 なら燈花会ウォーカーソン
於:奈良公園燈花会会場

9月22日 「生駒ウォーカーソン」
於:生駒山

「生駒ぞうすいの会」
於:山田理事宅

10月10日 奈良地区10月例会
於:奈良市中部公民館

10月16日 奈良地区10月例会
於:奈良市中部公民館

10月25日 「風人の祭り」飲食ブース出店
於:西大寺境内

11月8日 「柿狩りウォーカーソン」
於:木津川市周辺

「柿狩りぞうすいの会」&奈良地区11月例会
於:鹿背山

11月22日 アジアユースサミット 食事準備協力

11月23日 於:ならカトリック野外礼拝センター

12月21日 奈良地区12月例会
於:近鉄奈良駅前 高天ビル

1月22日 奈良地区1月例会
於:奈良市立中部公民館

2月11日 「竹送りウォーカーソン&奈良地区2月例会」
於:京田辺市及び奈良市

2月26日 「アジア屋台フェスティバル 前夜祭」
於:カトリック野外礼拝センター

「アジア屋台フェスティバル」
インド、インドネシア、カンボジア、タイ、台湾、日本、中国内モンゴル自治区、中国新疆ウイグル自治区、フィリピン、ネパール、モンゴル
於:ならカトリック野外礼拝センター

2月11日 「竹送りウォーカーソン&奈良地区2月例会」
於:京田辺市及び奈良市

3月21日 奈良地区3月例会
於:奈良市立中部公民館

【東大阪】(岡田一、坂上やよひ、南野紀美子)

5月10日 東大阪ふれあい祭り出店
於:近鉄大阪線河内小阪付近

9月27日 アジア家庭料理教室～特別編～
エジプトの家庭料理
講師:Gaber 氏ご一家
於:若江岩田 希来里

10月26日 秋のチャリティバザール開催
於:中山会員宅

11月3日 東大阪国際交流フェスティバル出店
於:三ノ瀬公園

12月4日 井戸寄贈資金をJAFS事務局へ持参
(スリランカへ1基)

2月27日 イコーラムフェスタ出展
アジアちびっこ画伯絵画展&水がめ体験
於:若江岩田 希来里 ホール

3月29日 春のチャリティバザール開催

III. 普及啓発事業

於:中山会員宅

上記のイベント以外に定例会を毎月第3月曜日に中山会員宅で実施し、イベント計画、準備についての話し合いをおこなっている。また、その他にもイベント前には必要に応じ、ミーティング、準備会を実施、イコラム主催の講演等への参加協力も行っている。

(10)第8エリア

【第8エリア】

8月5日 第8エリア地区世話人会
於:Café どれみふえ(堺東)

【和泉】(出原とよ、内野清子、中居順三)

8月2日 講演「ジンバブエの人と暮らし」
於:和泉市立人権文化センター
11月15日 いずみワールド・フェスティバル参加
JAFS パネル展示、アジアグッズ販売
於:和泉市役所
11月21日 和泉市どうすいの会 タイの踊りとお話
ゲスト:加納ジンタナ氏 福山サカウラット氏
於:長徳寺
12月12日 和泉ボランティアフェスティバル 出店
於:和泉市 シティプラザ
パネル展示
2月14日 いずみワールド・フェスティバル ワークショップ
アジア民族舞踊 参加
於:和泉市コミュニティセンター

【泉大津】(草加節男、中居順三)

4月5日 泉大津 さくら祭り&国際交流フェア参加
JAFS パネル展示、アジアグッズ販売
於:泉大津市民会館

【堺・高石】(幾谷真嬉子、久保幸子、小出裕司、佐藤満昭)

4月4日 堺 春のまちあるきウォーク
於:堺市内
5月5日 さつき祭 出店
於:山之口商店街
8月2日 第1回ギター・サマーコンサート 後援、協力
出演:ギター・アンサンブル「パートII」
於:堺市立東文化会館フラットホール
9月19日 市民草の根交流 NGO JAFS30年の歩み展 協力
～9月26日 於:堺市役所 本館1階ホール
内容:記念講演&コンサート、各種展示
市民ふれあいコーナーほか
10月18日 堺まつり 出店
於:山之口商店街
1月15日 第11回 新春チャリティ展 出展、頒布
～1月27日 JAFS パネル展示、アジアグッズ販売
於:ギャラリーいろはに
1月2日 募金活動協力
～1月3日 於:家原寺

(11)第9、10エリア

【東京】(岩田芳晴、高岸泰子、長谷川雅子、雨宮義人、川崎隆二)

3月30日 関東地区会 (10人)
於:カンティプール
5月10日 第1回富士山プロジェクト現地調査
於:4合目駐車場、5合目駐車場、御中道入り口、本栖湖キャンプ場
6月6日 第11回東京ウォーク
日比谷公園～皇居お堀端～青山通り～表参道～明治神宮
6月27日 町田どうすいの会
ゲスト:故川谷威郎先生
お話:「アジアに仕える者として」
於:農村伝道神学校
7月5日 第2回富士山プロジェクト現地調査
於:4合目駐車場、5合目駐車場、御中道、御庭駐車場
7月11日 富士山どうすいの会・ウォーク(各地区合同)
～7月12日 於:4合目駐車場(どうすいの会)、御中道ウォーク、富士登山、本栖湖キャンプ、竜ヶ岳登山
7月26日 JAFS 関東ブログ開設
9月4日 関東地区会 (12人)
於:カンティプール
9月19日 長野県小谷村ワークキャンプ(11人)と古道
～9月21日 「塩の道」ウォーク
於:小谷村、立屋共働学舎
10月3日 グローバルフェスタ JAPAN 2009 参加
～10月4日 於:日比谷公園
11月3日 関東地区会 (11人)
於:カンティプール
12月13日 勉強会「トエエモンさんから学ぶ バングラデシュ・プロジェクトを学ぶ」
於:JICA 地球広場
1月16日 JAFS 関東どうすいの会「ラカイン族の村に灌漑用井戸を!」(22人)
於:JICA 地球広場

【多摩】(広住道夫)

6月6日 八王子青少年対策由木地区祭 JAFS 活動紹介(120名)
於:八王子市立由木東中央小学校
8月23日 第3回多摩地区「わくわく子ども絵画大会」
JAFS 活動紹介及びアジアの子どもの話(11名)
於:たままち交流館
9月20日 第3回多摩地区「わくわく子ども絵画大会」
JAFS 活動紹介(21名)
於:関戸公民館
9月26日 多摩「永山フェスティバル」 JAFS 活動紹介(74名)
～9月27日 於:永山公民館
10月 国際交流「世界の子どもの絵画作品展」 JAFS 活

Ⅲ. 普及啓発事業

動紹介

於:永山公民館

10月13日 第32回「多摩市民文化祭」美術連盟展子ども

～10月18日 作品コーナー JAFS 活動紹介(420名)

於:パルテノン多摩

2月14日 「由木東市民センター祭」子どもめり絵体験コ

ーナー JAFS 活動紹介(50名)

於:由木東市民センター

【岐阜】(川合千代子)

7月4日 馬瀬ウォークソン

～7月5日 ハーブ収穫、「おしゃべり畑」の方々と交流

於:下呂市馬瀬

【新潟】(齋藤修一)

9月26日 新潟どうすいの会(24人)

於:新潟市 クロスパルにいがた



第3エリア 港区どうすいの会



第1エリア 高槻どうすいの会



第4エリア 松原どうすいの会



第2エリア 寝屋川多文化フェスティバル



第5エリア アジアお茶まつり(宇治)

III. 普及啓発事業



第6エリア 神戸・芦屋新年会



第9エリア 倉敷ぞうすいの会



第7エリア アジア屋台フェスティバル



第10エリア グローバルフェスタ



第8エリア 堺 春のまちあるきウォーカソン



全体地区世話人会

III. 普及啓発事業

III-B. 環境保全・環境教育

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で巡り、自然体験をした。

期 間：2009年8月7日(金)～8月12日(水) (5泊6日)

場 所：和歌山県新宮市高田地区

参加者数：参加者 77名(大阪側54名、新宮側23名)

ジュニア リーダー 1名

リーダー 18名

講師 9名

本部ボランティア・関係者・スタッフ 53名

(総計158名)

内 容：

・開校式、つどいの夜

・授業と体験

土の寺子屋

栄養度の高い扶養土を山から取り、その中に住む昆虫やその他の生き物の観察や色や匂いなど色々な面から土について学習した。

また、テントでの宿泊を体験し、釜戸での火起こしやエコ自炊やドラム缶風呂を体験した。

水の寺子屋

水の大切さをその中に住む生物の観察を通して学んだ。何十種類にも及ぶ川の生き物を採集し、それらの特性、特徴などを観察した。

また、カヌー体験で川の流れを知り、川で泳ぐ体験により全身で水を感じた。

緑の寺子屋

日本の滝百選に選ばれている桑の木の下までハイキングをし、緑の働きや人々とのかかわりを知った。道中にある草木や熊野地方特有の植物に触れ、緑の役割を学んだ。

海の寺子屋

海に生きる多様な生物を採集し、生態を観察した。海での磯観察では多種多様な生物に触れた。

また、船でホエール・ウォッチングに出かけ、くじらの生態を学び、地域での取り組みについて考えた。

心の寺子屋

スライドや話を通じて、世界の自然やアジアの国々の生活の様子に思いを馳せた。自分たちと同世代の子どもたちの生活や、アジアにおける水不足の現状、食糧事情、環境を視覚を通して学んだ。

・ミニオリンピック、地元の方との交流

・成果発表、閉校式

主 催：(社)アジア協会アジア友の会

和歌山県新宮市

(財)新熊野体験研修協会

後 援：大阪府教育委員会

大阪市教育委員会

和歌山県教育委員会

新宮市教育委員会

(社)朝日新聞大阪厚生文化事業団

(社)産経新聞大阪厚生文化事業団

(財)毎日新聞大阪社会事業団

(2) 各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク(インド、カンボジア、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている(大阪、吹田、寝屋川・枚方)。

◆国際グリーンスカウト大阪◆

(代表：山竹継男、広報部長：芳賀明代、企画部長：沖原美浮、国際部長：谷口惺、会計：正法地浩)

・ミーティング：祝日を除く毎週水曜日 19:00～20:30 及び土曜日

・活動内容：「エコキャンプ」などを通じた青少年環境教育活動及び海外支援活動

・今後の活動

<青少年環境教育活動(エコキャンプ)>

1泊2日のエコキャンプでは、以下のプログラムを通じて、小学3年生～高校3年生を対象とした環境教育を行っている。

①エコ買い物：エコバックや容器などを利用し、国産の商品を買うなど環境にやさしい買い物を行う。

②エコ自炊：少ない薪での調理や、ゴミの少ない調理方法を実習を通じて学ぶ。

③検定：一人で薪に火を点けられるようになるための「かまど検定」や箕面の植物に詳しくなるための「みどり検定」などを行い、楽しく知識や技術を習得できるプログラムを実施している。

④その他：竹のクラフト(お箸づくりなど)や森のハイキングなどを行い、自然や仲間の大切さを体験を通して学ぶ。

<国際協力活動>

オリジナルTシャツやエコバック、タオルなどを制作・販売し、売り上げの一部を同様に支援費に充当。

2009 年には約 150 本の苗木代を贈った。

・活動スケジュール

・4 月 箭満喫ツアー

III. 普及啓発事業

- ・4月 2010年度グリーンスカウトリーダー研修開始
- ・6月 初夏のエコキャンプ(日帰りキャンプ)
- ・7・8月 土と水と緑の学校準備・本番
- ・10月 秋のエコキャンプ下見
- ・11月 秋のエコキャンプ(1泊2日)
- ・12月 クリスマス&忘年会
- ・2月 ジュニア研修キャンプ(1泊2日)
- ・2月 メンバー募集説明会
- ・2月 春のエコキャンプ下見
- ・3月 春のエコキャンプ(2泊3日)
- (6～8月)は土と水と緑の学校の企画、下見、本番に参加
- 上記以外に、「土佐堀クリーンアップ作戦」に参加

◆国際グリーンスカウト吹田◆

(主なメンバー:長島徹、杉原貴、雨森清忠、大山美智子、服部博、濱野和也、野本賢成、早川直彦)

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっていこうというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。

環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を行っている。人数の多少に関わらず、2003年より継続しておこなっている。2002年より、7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っている。

糸田川清掃の日は定例会を併せて行い、次のイベントの企画を練る。定例会終了後は、懇親会を行なう。継続するためのコツとして「きちんとした活動とともに楽しむことも忘れずに」がモットー。2-3日のキャンプだけで、すぐに環境に対する意識が変わっていくとは思わないが、普段の生活の中で、ふと環境について思い起こしたり、自然保護について、家族で話し合ったりするキッカケになればと、期待して活動をしている。2010年も引き続き、月一回の川清掃、夏のキャンプを行う。

ホームページも開設。

http://www.geocities.jp/greenscout_suita1/htmls/top.htm

<糸田川清掃→環境保全活動>

毎月一回、第一土曜日に30分ほど実施。

平均すると参加人数は3～5人ほど。

実施日:4月4日、5月9日、6月6日、7月4日、8月1日、9月5日、10月3日、11月7日、12月5日、1月16日、2月6日、3月6日

<無人島キャンプ(ぐわすと探検隊)→環境保全の啓蒙>

7月18日～20日

瀬戸内海の無人島(友が島)で実施。

上記の他、不定期にバザーを行い、収益は運営費用に当てている。

◆国際グリーンスカウト寝屋川・枚方◆

2006年11月に結成。今年度は地域の植林活動に加わることで

地域密着型の活動を実施していくこととし、第2エリア植林活動実行委員会に参加。

7月25日 交野市の植林予定地の下草刈に参加

12月21日 第2エリア植林活動実行委員会(第1回)参加
北河内 JAFS 緑とふれあう会の実行委員会構成メンバーとなる

1月16日 第2エリア植林活動実行委員会(第2回)参加

1月31日 第2エリア植林活動下見会参加

(3)ウォーカソン

1999年の本会20周年を記念し、地球環境保全活動の一環として始まった「地球の水と緑を守ろう!ウォーカソン」も今年で11年目を迎える。また、アジア各国では青少年を中心としてグリーンスカウト運動を活発に行っており、この運動の一環としてウォーカソンも行っている。

本年度は30周年事業の一環として「生命の水」をテーマに、「地球の水と緑を守ろう!ウォーカソン・2009(International Water & Green Day Campaign・2009)」を開催。地球環境保全の大切さや地元を歩くことで出来る国際協力ということ、広く一般市民の方にも告知し参加を求めた。参加費や寄付はアジア各国の井戸建設に使われる。

開催場所: 24ヶ所

参加人数: 472名(心のウォーカソンを含む)

【堺/第8エリア】2009年4月4日(土) 参加者14名

『堺 春のまちあるきウォーカソン』

南海七道駅→紀州街道→本願寺堺別院→妙國寺→
堺市役所21階展望ロビー→竹内街道→山之口商店街→
千利休屋敷跡→大浜公園→旧堺灯台→南海堺駅
堺観光ボランティア協会のご案内

【大阪/第3エリア】2009年4月4日(土) 参加者27名

『春の大阪ミステリーツアー』

大阪市役所→中之島中央公会堂→適塾→愛珠幼稚園→
帝国座跡→靱公園→宮武外骨ゆかりの地→
大塩平八郎終焉の地
案内:西俣 稔氏(大阪案内人)

【東京/第10エリア】2009年6月6日(土) 参加者14名

『初夏のチャリティウォーク』

皇居お堀端→青山通り→表参道→明治神宮
「子どものお菓子展」(江戸時代より昭和までの菓子の変遷)を見学

【馬瀬/第10エリア】2009年7月4日(土) 参加者8名

『馬瀬ウォーカソン』

馬瀬村の村人との交流、自然を満喫

【寝屋川/第2エリア】2009年7月7日(火) 参加者23名

『七夕伝説ロマンウォーカソン』

香里園→新香里→観音山公園・牽牛石→天野川→逢合橋
→交野市駅→代官屋敷北田邸→倉治の織物神社

Ⅲ. 普及啓発事業

【静岡/第10エリア】2009年7月11日(土)12日(日)参加者130名

『富士山ウォーカソン』

香里園→新香里→観音山公園・牽牛石→天野川→逢合橋
→交野市駅→代官屋敷北田邸→倉治の織物神社

【奈良/第7エリア】2009年8月8日(土) 参加者10名

『なら燈花会ウォーカソン』

新公会堂→春日大社参道→猿沢池→近鉄奈良駅

【姫路/第6エリア】2009年9月19日(土) 参加者18名

「銀の馬車道パートⅢ」

JR生野駅→生野銀山、銀の馬車道→JR生野駅

【宇治/第5エリア】2009年9月19日(土) 参加者14名

『淀川水系駅伝ウォーカソン①宇治川』

観月橋→宇治川左岸→八幡桜堤→楠葉

【寝屋川/第2エリア】2009年9月20日(日) 参加者16名

『淀川水系駅伝ウォーカソン②楠葉・寝屋川』

枚方市駅→淀川資料館→鍵屋資料館→淀川入船場→
淀川決壊碑→府立水生生物センター→茨田樋遺跡→わんど→
佐太天満宮→鳥飼大橋・庭窪浄水場→大日駅

【長野/第10エリア】2009年9月20日(日) 参加者9名

『長野 白馬ウォーカソン』

長野白馬周辺

【奈良/第7エリア】2009年9月22日(火・祝) 参加者12名

『生駒山ウォーカソン』

生駒駅→生駒山頂ケーブル駅

【大阪/第3エリア】2009年9月23日(水・祝) 参加者16名

『淀川水系駅伝ウォーカソン③大阪市内』

津守駅前公園→落合上渡船→千島公園・昭和山→甚平渡船→
千歳渡船/昼食→なみはや大橋→天保山渡船

【淡路島/第6エリア】2009年10月25日(日) 参加者10名

『淡路島沼島ウォーカソン』

淡路島沼島周遊

【木津川市/第7エリア】2009年11月8日(日) 参加者10名

『柿狩りウォーカソン in 奈良』

加茂駅→旧大仏街道→鹿背山アバット→梶谷トンネル→赤橋
→鹿背山→奈良

【大阪/第3エリア】2009年11月13日(金) 参加者12名

『水都大阪今昔探訪ウォーカソン』

JAFS→錦橋→堂島川→玉江橋→新ABCホール→福沢諭吉生
誕地碑→鞆公園→パークホテル臨海

【高槻/第1エリア】2009年11月23日(月・祝) 参加者20名

『紅葉ふる北摂歴史ウォーカソン』

藤原鎌足ゆかりの奉納蹴鞠と二継体王陵の謎』

塚原→阿為神社→阿武山古墳・藤原鎌足墓→はにわ工房→今
城塚古墳→西国街道・芥川宿

【富田林/第4エリア】2009年11月28日(土) 参加者5名

『天野街道ウォーカソン』

大阪狭山市駅→狭山池→狭山池博物館→三都神社→
穴地藏→金剛寺(そば道場)

【奈良/第7エリア】2010年2月11日(木・祝) 参加者18名

『竹送りウォーカソン in 奈良』

① 竹の掘り起こし隊

京田辺で竹の掘り起こし→普賢寺で安全祈願

② 竹送り隊・竹送り見守り隊

奈良坂→転害門→奈良県庁前→氷室神社→東大寺南
大門→大仏殿前→二月堂

【大阪/第3エリア】2010年2月20日(土) 参加者41名

『「一夜官女」祭りと暴れ中津川の伝承の地を訪ねて』

阪神姫島駅→池永邸→洞窟情報サロン→野里住吉神社

【津和野/第9エリア】2010年3月6日(土) 参加者6名

『津和野ふるさとウォーカソン～山陰の小京都を訪ねて～』

津和野温泉なごみの里→鷲原八幡宮→津和野城跡→
稲成神社→弥栄神社→多胡家表門→殿町→カトリック教会→高
岡通り→乙女峠→本町
雨天のため延期(心のウォーカソン実施)

【尼崎/第1エリア】2010年3月13日(土) 参加者16名

『尼崎の古道・中国街道を歩こう』

小田支所前→常光寺→中国街道→大物主神社

案内: 尼崎ボランティアガイド

【奈良/第3エリア】2010年3月21日(日) 参加者15名

『山の辺の道ウォーカソン』

桜井駅→海石榴市観音堂→大神神社→玄賓庵→桧原神社→
景行天皇陵→長岳寺→柳本駅

案内: 平松良雄氏(橿原考古学研究所 研究員)

【姫路/第6エリア】2010年3月22日(月・祝) 参加者5名

『夢前町 里山ウォーカソン』

姫路市夢前町護持パーズタウン入口→テニスコート→2丁目バス停

(4) クリーンUP

【肥後橋・土佐堀クリーンup作戦】

「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」の実践として身近な環境問題に取り組むため、JAFS事務局周辺(肥後橋・土佐堀)のゴミ拾いを2007年4月より始めた。実行委員会を編成し、また当日の担当としてJAFSファミリーグループ及び地区が役割を担い、偶数月の第2土曜日に実施した。

「まちも ころも クリーンアップ!」をキャッチフレーズに、肥後橋周辺の商店や事業所にも呼びかけ、参加・協力の輪をひろげることがめざしていく。

実施回数: 5回

III. 普及啓発事業

参加者数: 37 名

- | | |
|-----------|---|
| 4 月 11 日 | クリーン up 作戦 参加者:3 名
(担当:クリーン up 実行委員会) |
| 6 月 13 日 | クリーン up 作戦 参加者:12 名
(担当:国際グリーンスカウト大阪) |
| 8 月 1 日 | クリーン up 作戦 参加者:3 名
(担当:KANTA(関西ナショナルトラスト協会)) |
| 12 月 12 日 | クリーン up 作戦 参加者:10 名
(担当:ダーナーズクラブ) |
| 2 月 13 日 | クリーン up 作戦 参加者:9 名
(担当:クリーン up 実行委員会) |



第 26 回土と水と緑の学校



国際グリーンスカウト大阪 初夏のエコキャンプ



肥後橋・土佐堀クリーンUP作戦

III. 普及啓発事業

III-C. 広報活動

1. 機関誌

(1) アジアネット

アカウンタビリティ(Accountability=企業や行政が社会の了解を得るために、なすべき説明責任)が求められる時代となっている。本会においては、会員、寄付協力者、そして本会活動にご理解くださる市民の方々へ、アジアネット・会員プラザ・ホームページ・各種パンフレット等を通して、活動の詳細を知らせている。

また、アジアネットの読者層は、年齢・性別・職業・地域等異なる人々で構成される。ただ一点、共通点はアジアに強い関心を持ち、アジアの人々と交流を求め、共生していこうという思いを持った方々である。

年4回の発行回数と24ページの限られた紙面の中で、本会のアジア各地における井戸建設や教育支援、環境保全などの多方面にわたる活動の報告が求められる。

今後、より良くするために、写真を多用し、同じ報告でも地域の人々の息遣いが聞こえるような方向に持っていきたい。記録性と読み物としての魅力をもった紙面づくりを目指して、多くの人に目を通して頂けるようにしたい。

《発行実績》 各号5,000部発行

- 102号 2009年6月
- 103号 2009年11月
- 104号 2010年3月

◆102号主要記事

- ・今、アジアでは（ベトナム・アフガニスタン・インド）
- ・2009年度海外プロジェクト支援一覧
- ・2008年度に行なった海外プロジェクト
- ・アジアのネットワーク（インド・ネパール）
- ・JAFS 寄贈井戸報告 井戸ができた村
- ・2009年社員総会報告
- ・里子の笑顔
- ・アジアの友から

◆103号主要記事

- ・魅惑の国、ラオス
- ・JAFS 活動30年の過去・未来
- ・Voice! アジアとともに30年
- ・1滴の水から～目で見えるJAFS 活動30年の軌跡～
- ・第1号井戸は今…JAFSの活動の源流を訪ねて
- ・JAFS 寄贈井戸報告 井戸ができた村
- ・アジアのネットワーク（フィリピン・タイ）
- ・里子の笑顔

◆104号主要記事

- ・第1回アジアユースサミット 地球の未来へ向かって
- ・30周年記念特集 植林活動第1号
- ・変わる中国、民から民への循環システム
- ・緊急災害支援の現場から
- ・アジアのネットワーク

- ・里子の笑顔
- ・JAFS 寄贈井戸報告 井戸ができた村
- ・アジアの友から

(2) 会員プラザ

「会員プラザ」は、会員の様々な国内活動を紹介し、会員相互のコミュニケーションを図ることを目的に発行している。また、私たちの生活がアジアとつながっていることを、様々な角度から学び、私たちの日常の気づきとなるように心がけている。

2009年はJAFSが設立30周年を迎えるということで記念事業が各地で展開された。その様子を主に掲載。

2010年は多くの会員さんに登場していただくよう心がけると共に、情報誌としての内容を膨らませていく。

- ・21号 2009年6月
- ・22号 2009年11月
- ・23号 2010年3月
- ・24号 2010年3月(特別号)

2. インターネット

(1) ホームページ

ホームページの更新作業とあわせて大幅に遅れている新ホームページの作成作業を進めている。

2010年度は新HPの公開、松原地区や関東地区のブログなどと連携しながら、さらに訪問者の増えるホームページ運用をめざしていく。

(2) メールマガジン

2009年度は、およそ月1回発行の頻度で合計14回の発行ができた。現在、登録読者数は577名。少しずつ増えてきている。

メールマガジンの内容は、本会の海外支援プロジェクトの状況やアジア現地からの小話、また国内プログラム参加者の感想など一般の方に読みやすい内容を届けることができた。

2010年度は、本会ホームページへ誘導し活動への参加協力につながるような工夫も加えて、それを効果的に活用させていきたい。

登録読者数:577名、14回発行

(3) ブログ等

活動状況を広く発信するために、各活動グループでブログやホームページを独自で設け、本会ホームページとリンクをしている。

III. 普及啓発事業

- ・松原ぞうすいの会 (HP を開設 2009/3/25)
<http://blog.goo.ne.jp/jafsmatsubarazousuinokai>
- ・JAFS 関東地区 (ブログを開設 2009 年 7 月)
<http://jafskanto.blog61.fc2.com/>
- ・グリーンスカウト大阪
<http://green.ap.teacup.com/gskouhou/> (広報用)
<http://green.ap.teacup.com/applet/greenscoutosaka/archive>
(参加者・保護者用)
<http://moon.ap.teacup.com/applet/gs2009/archive> (ボランティア用)
- ・グリーンスカウト吹田 (HP を開設)
http://www.geocities.jp/greenscout_suita1/htmls/top.htm

3. その他出版物

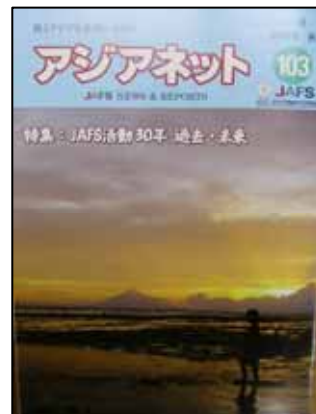
(1) 社員通信

「社員通信」は、社団法人の社員について学んでいくと共に、JAFS 社員会員の様々な活動を紹介し、相互のコミュニケーションを図ることを目的に発行している。

- 1 号 2009 年 10 月
- 2 号 2010 年 1 月

(2) 英文広報

AFS のネットワークに対して、フィリピン・カリピ財団が中心となり、環境問題、とくに気候変動に関するニュースもほぼ毎日発信した。今後も益々 JAFS や他の AFS 団体の活動をみんなでわちあつていきたい。



アジアネット



会員プラザ